

平成 15 年度 [第 15-K2455-01 号]

二級河川巴川（麻機遊水地）総合治水対策特定河川

工事に伴う自然環境モニタリング調査業務委託

報 告 書

平成 1 6 年 3 月

静岡県静岡土木事務所

特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会

はじめに

本報告書は麻機遊水地における自然環境を把握し、河川整備計画等の計画策定の際に河川環境に関する資料としての利用や遊水地事業のPR活動などで配布する資料（冊子）を作成し、とりまとめたものである。

業務の内容は第4工区・第3工区の自然環境のモニタリング、第3工区の工事か所の植物と陸上昆虫類及び配布用冊子の作成である。なお、本書の構成は、Ⅰ業務計画、Ⅱ自然環境のモニタリング、Ⅲ工事施工か所の調査、Ⅳ配布冊子作成の構成とした。

本業務で特に留意した点

自然環境のモニタリング

(1) 調査の目標

- ① 麻機遊水地の現在の状況に関わる情報の収集
- ② 麻機遊水地の植物・鳥類などの変化に関わる情報づくり
- ③ 上記の項目を基に、これまでの実績を踏まえた分野別保全対策の立案
- ④ 本調査は「平成9年度版河川水辺の国勢調査マニュアル河川版」を参考にしている。

(2) 業務の取り組み

- ① スタッフは本会員のうち、長年遊水地で自然観察活動や調査業務に関わってきた、各分野の専門家14名で取り組んだ。
- ② 分野別の取りまとめ
過去の調査記録を踏まえ現地調査をし、その結果を踏まえて工区別に特性のゾーニング～課題・問題点の抽出～保全対策の立案の順序で取りまとめた。

(3) 分野別モニタリングの結果

5つの分野のうち植物については「河川水辺の国勢調査マニュアル河川版」を参考に実施しているが他の分野については現在の状況に関わる情報の収集にとどめた。このため、今後も継続した調査が望まれる。

・ 植物種

これまでに確認された植物種は112科600種となった。種別では、イネ科83種、キク科48種、カヤツリグサ科43種等生育基盤別では水生・湿生植物188種(31%)、陸生植物411種(69%)、在来種432種(72%) 外来種167種(28%)となった。

植物の分野では植物の多様性がみられるようになったと言える。

(4) 保全対策の立案

5つの分野から提案された保全対策の立案を工区別にみると。

第4工区

・ 水域

- ☆ 水域を占有するホテイアオイ、オオフサモ、チクゴスズメノヒエの除草。
- ☆ 池沼の陸化を進行させる植物群落とその要因の追跡調査。
- ☆ 水辺環境を維持（陸上昆虫類）するため、ヨシ（アシ）、マコモ、ヒシなどのバランスよく保全する。
- ☆ 下流域の泥や腐植物の堆積は遊水地の宿命と言える。この干潟はサギ、チドリ類の貴重な

生息場所として保全する。このため濬筋を造り安定した干潟として保全したい。

- ☆ 鳥類ではチクゴスズメノヒエ群落は開水面との接点にあってカモ類の休息場所である。
- ☆ シダレヤナギの島はカワウ、サギ類にとって貴重な生息場所である。
- ☆ 両生類・爬虫類では、ウシガエル、ミシシippアカミミガメの個体数を減少させる対策を講じる。(第3工区も同じ)
- ☆ 魚類では維持用水を確保したい。
- ☆ 淡水魚類生息域のゾーニングを行ない、カムルチー、ブルーギル、オオクチバスなどの外来種を除去したい。

第3工区

・ 水域

- ☆ 水域を占有するヒメガマ、アカウキクサ、マコモ、ハス等の管理をしていく。
- ☆ 開水面を確保するため、本年度実施されたヤナギの森付近のように草刈を人力で（可能ならば）実施したい。
- ☆ 両生類・爬虫類の生息環境は池沼、水路、湿地、草地等の環境が段差なく連続させる。水路の整備では兩岸をコンクリートにせず水生植生などによる緩傾斜にする。湿地には小池を造成する。
- ☆ 淡水魚類では昔しあった湧水を復元し、西側の市道が嵩上げされる機会に汚水は別ルート（遊水地に入れない）にしたい。

・ 陸域

- ☆ セイタカアワダチソウ群落や人体に影響のあると言われるオオブタクサ類の除草。
- ☆ 遊水地に自生するヤナギ類を活用し、造園木は導入しない。

(5) 遊水地の方向性

本調査によって整備が進められる遊水地は、植物をはじめとする生物が予想以上に蘇がえっている。このとは長年観察活動をしてきた会員をはじめ関係者から高い評価を得ている。このため今後は周辺の丘陵地等へのコリドー（回廊）づくりをはじめ生物の多様性を目指した麻機湿原特有（Only One）の生態系がどうなのかを捉えた湿原の維持が望まれる。

—遊水地の適切な維持管理の第1歩は自然から学ぶことを実感する。—

目 次

	頁
I 業務計画	1
1. 業務の目的	〃
2. 業務対象地区	〃
3. 業務の内容	〃
(1) 自然環境のモニタリング	〃
(2) 工事施工か所の調査	2
(3) 配布冊子の作成	〃
(4) 作業フロー	〃
II 自然環境のモニタリング	1
1. 調査の準備	〃
(1) 概観調査	1～2
(2) 水域と陸域の概観	3
①第4工区	〃
②第3工区	4
(3) 業務の分担	5
2. 業務実績	5～7
3. 植物	8
(1) 植物経年出現状況調査	〃
①区画図	〃
②調査の結果	9～10
植物経年出現状況一覧表	11～26
(2) 植物特定種・珍しい植物調査	27
①植物特定種	〃
②珍しい植物	〃
植物特定種一覧表	28
珍しい植物一覧表	29～30
③植物特定種と珍しい植物の位置づけ	31
植物特定種・珍しい植物の平面図	32～33
(3) 植物群落調査	34
植物群落図	35～36
植生図	37～38
植生状況写真	39～79
(4) 植物断面調査 調査の結果	80～83
第4工区	84
(5) 特性のゾーニング	〃

(6) 課題・問題点の抽出		84
(7) 評価		88
(8) 保全対策の立案		94
工区全体		95
第3工区		96
(9) 特性のゾーニング		〃
(10) 課題・問題点の抽出		〃
(11) 評価		101
(12) 保全対策の立案		〃
工区全体		102～104
4. 陸上昆虫類		105
第4工区・第3工区		〃
(1) 文献調査の結果		105～110
(2) 特性のゾーニング		111
(3) 課題・問題点の抽出		〃
(4) 評価		112
(5) 保全対策の立案		〃
水辺の学習「なぜ？ヤナギの森づくりをするのか」		
講師日本鱗翅学会会長 高橋真弓先生		113
5. 鳥類		114
第4工区・第3工区		〃
(1) 文献調査の結果		114～119
(2) 鳥類特定種・稀少種・迷鳥		120～122
(3) 現地調査		123
第4工区		123～125
第3工区		126～128
(4) 鳥類集団分布		129
第4工区		131
(5) 特性のゾーニング		〃
(6) 課題・問題点の抽出		〃
1地区		131～132
(7) 評価		132
1地区		〃
2地区～3地区		137～138
(8) 保全対策の立案		138
1地区～2地区・3地区		〃
第3工区		139
(9) 特性のゾーニング		〃
(10) 課題・問題点の抽出		〃

1 地区		139～140
2 地区		139～140
3 地区		141
工区全体		//
(11) 評価		142
1 地区～3 地区		//
工区全体		//
(12) 保全対策の立案		142～143
6. 両生類・爬虫類		144
第4工区		//
(1) 現地調査		//
調査の結果		//
(2) 特性のゾーニング		145
(3) 課題・問題点の抽出		//
1 地区～4 地区		//
工区全体		145～146
(4) 評価		146
1 地区～4 地区		//
工区全体		//
(5) 保全対策の立案		//
1 地区～4 地区		146～147
工区全体		147
第3工区		148
(6) 現地調査		//
調査の結果		149
(7) 特性のゾーニング		150
(8) 課題・問題点の抽出		//
1 地区～6 地区		//
工区全体		150～151
(9) 評価		151
1 地区～6 地区		//
工区全体		151～152
(10) 保全対策の立案		152
1 地区～6 地区		//
工区全体		152～153
7. 淡水魚類		154
第4工区		//
(1) 現地調査		//
1 地区～4 地区		154～158

(2) 過去の記録	159
①平成6年度（実施：平成7年1月）	〃
3 地区～7 地区	159～161
②平成15年度（実施：平成15年10月4日）	〃
1 地区～2 地区	162～163
(3) 特性のゾーニング	164
(4) 課題・問題点の抽出	〃
1 地区～2 地区	164～166
(5) 評価	166
1 地区～2 地区	166～167
工区全体	167
麻機遊水地（第4工区）水温平面図	168～169
(6) 保全対策の立案	170
1 地区～2 地区	〃
工区全体	〃
第3工区	171
(7) 現地調査	〃
1 地区～4 地区	171～175
(8) 過去の調査記録	176
平成8年度（実施：平成8年8月12日・9月25日）	
1 地区～6 地区	176～178
魚介類調査結果総括図	179
②平成12年度	180
1 地区～3 地区	180～181
確認された魚介類	181
池沼環境づくり平面図	182
池沼状況の推移ーひょうたん島付近	183～185
麻機遊水地（第3工区）水温調査平面図	186～188
(9) 特性のゾーニング	189
(10) 課題・問題点の抽出	〃
1 地区～2 地区	189～190
(11) 評価	191
1 地区～2 地区	〃
工区全体	〃
(12) 保全対策の立案	〃
1 地区～2 地区	〃
8. とりまとめ	192
(1) 保全対策の立案	〃
(2) 遊水地全体の方向性	〃

①遊水地（麻機湿原）の特性	192
②質の高い湿原の維持	〃
③コリドー（回廊）の創出	193
④生物生息空間形態と配置	194
Ⅲ 工事施工か所の調査	
植物・昆虫の保全対策	
1. 目的	1
2. 調査の場所	〃
3. 調査の場所方法	〃
(1) 植物調査	〃
①調査の方法	〃
②調査の状況	〃
③調査の結果	5
・植物相一覧表	5～7
④評価	9
(2) 昆虫（陸上）調査	〃
①調査の方法	〃
①調査の方法	〃
②調査の状況	〃
③調査の結果	10
・蝶とトンボの生態	11～29
④評価	30
4. 保全対策	31～35
Ⅳ 配布冊子の作成	
麻機遊水地の自然 シリーズ1 野鳥	
1. 作成の目的	1
2. テーマ	〃
3. 企画・構成	〃
4. 編集方針	〃
5. 印刷仕様	〃
6. レイアウト	〃
7. イメージ構成	3
(1) 第1回広報デザイナー（県嘱託）の助言	3～9
(2) 第2回広報デザイナー（県嘱託）の助言	10～17
(3) 第3回広報デザイナー（県嘱託）の助言	18～19

Ⅲ. 工事施工か所の調査 植物・昆虫の保全対策

目 次

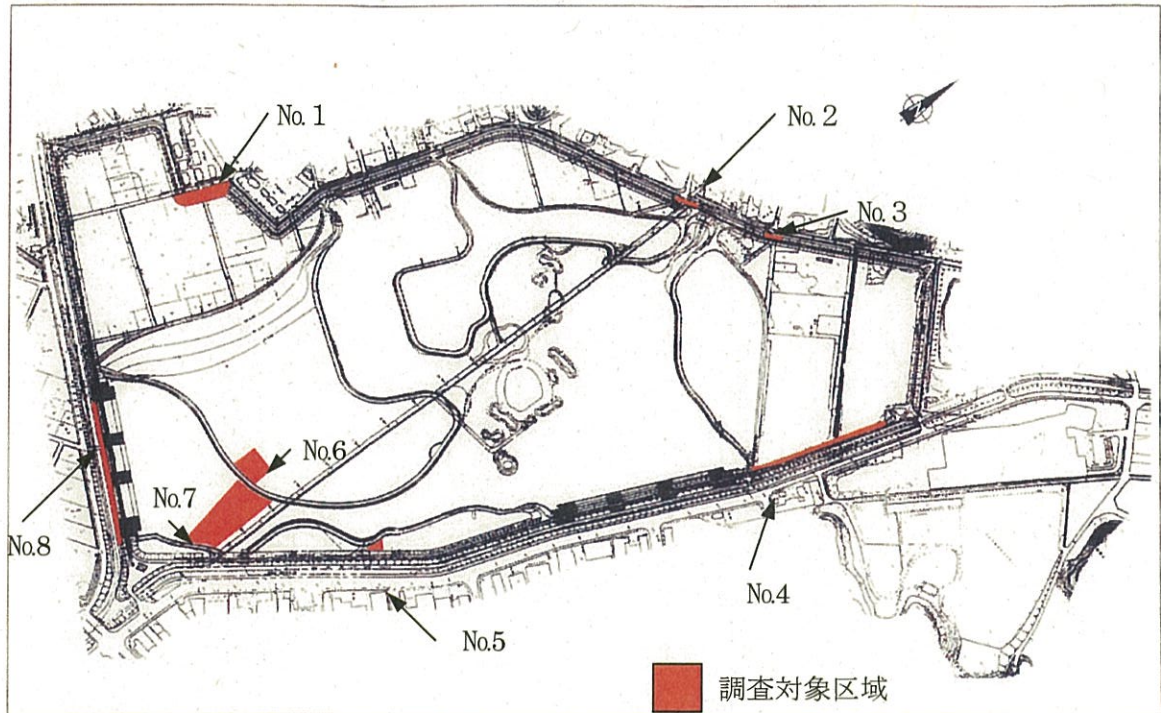
	頁
1. 目的	1
2. 調査の場所	〃
3. 調査の方法・同定作業	〃
(1) 植物調査	〃
① 調査の方法	〃
② 調査の状況	〃
③ 調査の結果	5
・植物相一覧表	5～7
④ 評価	9
(2) 昆虫（陸上）調査	〃
① 調査の方法	〃
② 調査の状況	〃
③ 調査の結果	10
・蝶とトンボの生態	11～29
④ 評価	30
4. 保全対策	31～35

1. 目的

本調査は工事が予定されている周囲堤、池沼、巴川左岸堤など8か所で、調査の対象は工事によって負荷をうけることになる植物と昆虫（陸上）を確認し、その保全対策が目的である。

2. 調査の場所

調査対象地区は、周囲堤4か所（No.1・2・3）、畑（買収されたクリ林No.5）、掘削される池沼（No.7）と掘削土仮置場（No.6）及び越流堤（巴川左岸No.8）の8か所を対象とする。



調査対象区域図

3. 調査の方法・同定作業

植物の調査と昆虫の調査を区分して挙げる。

(1) 植物調査

① 植物調査の方法

本調査は調査対象区域のNo.1～No.7までは植物相を確認する。No.8は保全すべき植物のみ確認する。同定作業は前島固女に依頼する。

② 調査の状況



調査の状況（No.1地区）



保全したい植物
(ウスゲチヨウジタデ)



同 左
(タコノアシ)



調査の状況
(No. 2 地区)



保全したい植物
(タコノアシ群落)



調査の状況
(No. 3 地区)



保全したい植物
(コガマ)



調査の状況
(No. 4 地区)



調査の状況
(No. 5 地区)



調査の状況
(No. 6 地区)



保全したい植物
(タコノアシ)



保全したい植物
(ミゾコウジュ群落)



同 左
(アカメヤナギ群落)



調査の状況
(No. 7 地区)



保全したい植物
(サクラタデ)



保全したい植物
(コゴメヤナギ・2株)
観測舎付近



同 左
(コゴメヤナギ・2株)
鋼橋の上流

③ 調査の結果

調査の結果、工事に伴う負荷を受ける植物のうち保全したい植物を確認した。保全し対植物は絶滅危惧種3種と珍しい植物3種である。

絶滅危惧種 タコノアシ (群落)
 ウスゲチョウジタデ
 ミゾコウジュ (群落)
 珍しい サクラタデ (群落)
 コガマ
 アカメヤナギ (群落)

・植物相一覧表

科 名	種 名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	摘 要
やなぎ	シダレヤナギ				○					
	アカメヤナギ				○		○群			
	カワヤナギ						○			
	コゴメヤナギ							○	○	
ぶな	クリ					○				
にれ	エノキ	○				○				
くわ	カナムグラ					○				
	ヤマグワ					○				
いらくさ	カラムシ					○				
たで	ヤナギタデ	○			○		○			
	イヌタデ	○								
	ヤノネグサ	○								
	ミゾソバ	○			○					
	サデクサ	○								
	アキノウナギツカミ	○								
	イシミカワ	○								
	イタドリ	○			○					
	アレチギシギシ	○				○				帰化
	オオイヌタデ		○		○					
	スイバ					○				
	サクラタデ							○		珍らしい
	ホソバノウナギツカミ							○		
おしろいばな	オシロイバナ	○								逸出
あかざ	シロザ		○							帰化
ひゅ	ヒナタイノコズチ	○				○				
	ホソバツルノゲイトウ		○				○			帰化
	ホソアオゲイトウ				○					
くすのき	クスノキ					○				
きんぼうげ	ケキツネノボタン			○			○			
あけび	アケビ					○				

科 名	種 名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	摘 要
どくだみ	ドクダミ			○						
けし	タケニグサ	○								
あぶらな	スカシタゴボウ		○		○					
ゆきのした	タコノアシ	○	○	○			○			絶滅危惧種
ばら	ノイバラ				○	○				
	オヘビイチゴ				○					
	ヤブヘビイチゴ					○				
	クサイチゴ					○				
まめ	ヤハズソウ		○							
	コマツナギ		○							
	シロツメクサ		○				○			帰化
	ヤブマメ		○	○						
	ヤブツルアズキ		○	○	○					
	アレチヌスビトハギ				○					帰化
	ツルマメ			○						
	クズ			○		○				
	クサネム						○			
	メドハギ						○			
かたばみ	カタバミ	○			○					
とうだいぐさ	アカメガシワ	○		○		○				
	エノキグサ	○			○		○			
	オオニシキソウ			○						帰化
	ビロードエノキグサ			○						
むくろじ	フウセンカズラ	○								逸出
もちのき	クロガネモチ					○				
にしきぎ	マサキ					○				
ぶどう	ノブドウ	○		○						
	ヤブガラシ	○			○					
うり	カラスウリ					○				
みそはぎ	ホソバヒメミソハギ						○			帰化
あかばな	ウスゲチョウジタデ	○			○					準絶滅危惧種
	ユウゲショウ		○							帰化
ありのとうぐさ	オオフサモ				○					帰化
うこぎ	キズタ					○				
やぶこうじ	マンリョウ					○				
もくせい	トウネズミモチ				○	○				
	ネズミモチ					○				
あかね	ヘクソカズラ	○				○				
ひるがお	ホシアサガオ						○			帰化
	マメアサガオ				○		○			帰化
くまつづら	アレチハナガサ				○		○			帰化

科 名	種 名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	摘 要
しそ	ヒメジソ						○			
	カキドオシ			○						
	ミゾコウジュ						○			準絶滅危惧種
なす	アメリカイヌホウズキ				○					帰化
ごまのはぐさ	タケトアゼナ		○							
	オオイヌノフグリ			○						帰化
きつねのまご	オギノツメ						○			
きく	ヨモギ	○		○		○	○			
	ヒロハホウキギク	○	○	○	○		○			帰化
	アメリカセンダングサ	○		○	○		○			帰化
きく	オオアレチノギク	○								帰化
	アキノノゲシ	○	○	○	○					
	ヨメナ	○			○					
	ヒメムカシヨモギ	○	○	○						帰化
	セイタカアワダチソウ	○		○	○	○	○	○		帰化
	コセンダングサ		○	○	○					帰化
	アメリカカタカサブロウ		○		○		○			帰化
	オオオナモミ		○		○					帰化
	ノコンギク			○						
	ノゲシ			○						
	セイヨウタンポポ			○						帰化
とちかがみ	オオカナダモ				○					
ゆり	ジャノヒゲ					○				
ひがんばんな	ヒガンバナ					○				
いぐさ	ホソイ				○					
つゆくさ	ツユクサ		○	○						
いね	コブナグサ	○			○		○			
	ジュズダマ	○		○						帰化
	メヒシバ	○	○	○	○					
	アキメヒシバ	○	○	○			○			
	イヌビエ	○	○		○		○			
	ケイヌビエ	○								
	チガヤ	○								
	チゴザサ	○								
	アシボソ	○								
	オギ	○			○					
	スズメノヒエ	○								
	チクゴスズメノヒエ	○			○		○	○		帰化
	チカラシバ	○		○						
	ヨシ	○	○					○		
	アキノエノコログサ	○			○		○			

科 名	種 名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	摘 要
いね	ムラサキネズミノオ	○								
	マコモ	○			○			○		
	オオクサキビ		○		○		○			帰化
	コツブキンエノコロ		○							
	アシボソ			○						
	キンエノコロ			○	○		○			
	タチスズメノヒエ				○					帰化
	オニウシノケグサ				○					帰化
	シマスズメノヒエ			○						帰化
	エノコログサ			○						
	ヌカキビ					○	○			
	ススキ					○				
	ニワホコリ						○			
	チガヤ						○			
	セイタカヨシ							○		
がま	ヒメガマ		○		○			○		
	コガマ			○						珍らしい
かやつりぐさ	カンガレイ	○					○			
	アイダクグ	○	○				○			
	カサスゲ		○				○			
	クグガヤツリ		○							
	タマガヤツリ		○				○			
	メリケンガヤツリ		○		○					帰化
	アゼナルコ				○			○		
	コゴメガヤツリ			○			○			
	カワラスガナ						○			
	イガガヤツリ						○			
	テンツキ						○			
とくさ	スギナ		○	○	○	○				
48科	141種	15科	14科	14科	23科	22科	15科	6科	1科	
		49種	32種	35種	46種	30種	40種	10種	1種	
絶滅危惧種	タコノアシ	2科	1科	1科	2科		2科	1科		
	ウスゲチョウジタデ	2種	1種	1種	2種		2種			
珍らしい植物	ミゾコウジュ									
	サクラタデ			1科			1科	1科		
	コガマ									
	アカメヤナギ			1種			1種	1種		

④ 評価

調査の結果No.1～No.8 地区には 48 科 141 種の植物が確認された。この中で保全したい植物のタコノアシなど 7 科 7 種は、No.1～No.7 地区まで生育している。また、他の植物は工事によって負荷をうけることになるがこの近くには群落もみられ、これらの群落で代替えとしたい。No.8 地区には（巴川左岸の法面）コゴメヤナギの高木 4 株が生育している。

この状態を地区別に評価する。

地区No.	評 価
1	この地区は一部周囲堤が築造されているが、残りの部分は休耕田になっていて、この中にタコノアシとウスゲチョウジタデが生育している。工事に伴い移植が必要である。
2	この地区は市道沿いにタコノアシの群落がある。工事に伴い移植が必要である。
3	水路敷内には、本工区ではほとんど見られなくなったコガマが生育している。工事に伴い負荷をうけるようであれば移植が必要である。
4	この地区には保全を必要とする植物は見られない。
5	この地区はクリ林であるが、保全を必要とする植物は見られない。
6	この地区は以前浚渫土砂の仮置場であった。現在、タコノアシの他に、ミゾコウジュとアカメヤナギの群落がある。工事に伴い移植が必要である。
7	本調査では唯一の池沼部分でヒメガマの群落がある。市道沿いにはサクラタデの小群落がある。工事に伴い移植が必要である。
8	この地区は越流堤が予定されている。巴川の左岸には、コゴメヤナギの高木 4 株が生育している。本種は遊水地内のヤナギ類の中でも数少ない。工事に伴い移植が必要がある。

(2) 昆虫（陸上）調査

本調査は調査対象区域No.1～No.7 に生息する陸上昆虫のうち植物を食草とする蝶類を対象にする。その結果を踏まえ特に留意すべき点について評価する。

① 調査の方法

調査は静岡昆虫同好会会長高橋真弓氏に依頼し、現地を確認し評価する。

② 調査の状況



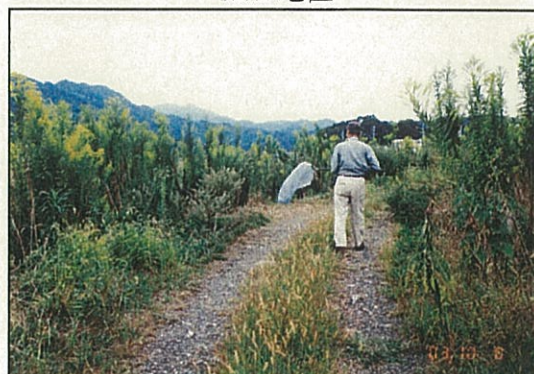
No. 1 地区



No. 2 地区



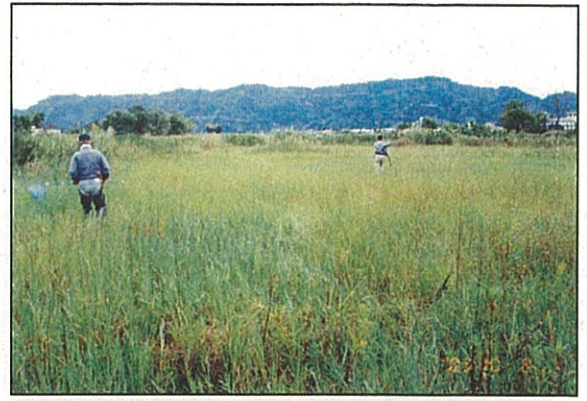
No. 3 地区



No. 4 地区



No. 5 地区



No. 6 地区



No. 7 地区



No. 8 地区 (コゴメヤナギ 2 株)
観測舎付近

③ 調査の結果

No. 1 地区～No. 7 地区で採取、目撃による確認した蝶とトンボを挙げる。

地区名	種名	参考資料	地区名	種名	参考資料
No. 1	ヤマトシジミ	P 11	No. 6	キチョウ	P 22
	ウスバキトンボ	P 28		キタテハ	P 21
	ナツアカネ	P 27		イチモンジセセリ	P 23
No. 2	モンキチョウ	P 12		ツバメシジミ	P 20
No. 3	モンキチョウ	〃		ナツアカネ	P 27
No. 4	モンシロチョウ	P 13		モンキチョウ	P 12
No. 5	ヒメジャノメ	P 15		イチモンジセセリ	P 23
	ゴマダラチョウ	P 17	No. 7	ツバメシジミ	P 20
	ルリタテハ	P 19		キチョウ	P 22
	モンキチョウ	P 12		ウラナミシジミ	P 25
	ヤマトシジミ	P 11		ナツアカネ	P 27
	ツバメシジミ	P 20		ミヤマアカネ	P 29
	コムラサキ	P 18			
No. 6	ウスバキチョウ				

No.1 地区 ヤマトシジミ (シジミチョウ科) III.46・249

① 生息地

日本産蝶類のうち、人為的環境にもっともよく適応した種の一つで、人里昆虫と呼ばれるにふさわしいものである。これは第一に食草となるカタバミの分布と生態によるところが大きい。もともと生息地はカタバミの自生する海岸台地などと推定されるが、耕作地周辺の草地、路傍、石垣、庭園、駐車場、運動場、ゴルフ場、堤防など草のあるところならいたるところに姿を見せる。

② 食餌植物

カタバミ (カタバミ科)

「特記」三島市の観察

4月～5月 カタバミ
6月～8月前半 シロツメクサ
8月後半～10月前半 キツネノマゴ
10月後半～11月前半 カタバミ 以上吸蜜植物

③ 吸蜜植物

(春) ハルノノゲシ、ジシバリ、ニガナ、ヒロハタンポポ、オオイヌノフグリ、トウバナ、ミヤコグサ、カラスノエンドウ、ヘビイチゴ、イヌガラシ、タネツケバナ、ウシハコベ、

(夏) コウゾリナ、ヒメジョオン、ヒャクニチソウ、ヤブジラミ、ムラサキカタバミ、アカツメクサ、コマツナギ、マルバヤハズソウ、ネコハギ、コニシキソウ、シロツメクサ、マツバボタン、センニチコウ

(秋) アキノノゲシ、ヤクシソウ、ノコンギク、ヨメナ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、コスモス、ハキダメギク、キツネノマゴ、ヒメジソ、ママコノシリヌグイ、イヌタデ、オオケタデ、ヤナギタデ、ベンケイソウ



出典: 原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

おもに開けた環境に生息し、海岸の草原、人家周辺、耕作地、山地草原、疎林的环境から高山の草原にまで垂直分布は広い。特に多いのは牧場、河川の堤防、レンゲ畑やその周辺などである。

② 食餌植物

多くのマメ科植物を食べる。野外で確かめられたのはコマツナギ、ミヤコグサ、ウマゴヤシ、ムラサキウマゴヤシ、コメツブウマゴヤシ、シナガワハギ、シロツメクサ、アカツメクサ、クサフジ、ニセアカシア、スズメノエンドウ、ダイズ、レンゲソウ、ツルフジバカマ、タイツリオウギ、イワオウギ、カスマグサ、センダイハギ

長野県では春はスズメノエンドウ、マスマグサ、6月～7月はスズメノエンドウ、8月～11月はシロツメクサを食べるものが多いという。

③ 吸蜜植物

草原上を割合に低く活発に飛び各種の花を訪れる。ヒメジョオン、タンポポ類、アザミ類、ヒヨドリバナ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、シロツメクサ、アカツメクサ、ミヤコグサ、クサフジ、レンゲソウ、オミナエシ、ママコナ、などの多くの花で吸蜜し、吸蜜時はかならず翅を開じる。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

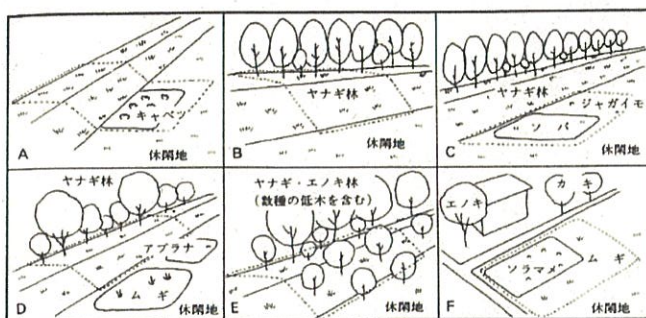
① 生息地

日本産モンシロチョウ属中もっとも陽地性が強く、日当りのよい開けた環境に生息する。キャベツ、ハクサイ、ダイコンなどアブラナ科植物の栽培される耕作地をはじめイヌガラシやスカシタゴボウの見られる耕作地周辺や路傍、マメグンバイナズナの群生する都市郊外の荒地、さらに土着植物のハタザオ、ヤマハタザオの自生する山地の河原やヤマガラシの見られる日本アルプスの亜高山帯などに発生する場合もある。

1958年6月1日の午後、静岡市の郊外においてモンシロチョウとスジグロチョウ（いずれも夏型）2種の生息地における個体数を調査したものである。それによれば、日当りのよいA、C、F地区ではモンシロチョウの比率が著しく高いが、日陰のE地区では反対にスジグロチョウの比率がもっとも高くなっており、後者が前者よりも弱光を好むことがわかる。（高橋真弓 1958）

—モンシロチョウ属の生息地—

第42図版



地区	環境	明るさ	個体数		両種の割合(%)	
			モンシロ	スジグロ	モンシロ	スジグロ
A	耕作地・草地	卍	21	1	95	5
B	林側草地	卍	12	34	26	74
C	耕作地	卍	21	4	84	16
D	林側草地	卍	8	10	44	56
E	林内	+	1	13	7	93
F	耕作地	卍	26	0	100	0

② 食餌植物

主としてアブラナ科の栽培植物を食べ、アブラナ属のキャベツと、その品種のブロッコリー、カリフラワー、ハボタン、などをもっとも好み、他にアブラナ、タイサイ、カブラ、コマツナ、ハクサイ、センスジミズナ、カラシナ、ダイコン属のダイコンなどの害虫として知られ、ワサビ属のワサビ、オオアラセイトウ属のオオアラセイトウなどで発生することがある。イヌガラシ属のイヌガラシ、ミチバタガラシ、スカシタゴボウ、キレハイヌガラシ、ミミイヌガラシ、タネツケバナ属のタネツケバナ、オランダガラシ属のオランダガラシ、マメグンバイナズナ属のマメグンバイナズナなどの、いわゆる耕地雑草にもよく発生する。

③ 吸蜜植物

飛び方は日本産モンシロチョウ属4種の中ではもっとも活発で、上下左右に不規則に動きながら飛ぶ。

吸蜜植物の主なものをあげると、春はダイコン、ネギなど耕作地の栽培植物ほか、ヒロハタンポポなどのタンポポ類、ハルノノゲシ、ジシバリ、カキドオシなどの耕地雑草の花によく集まる。初夏にはジャガイモ、ソバ、の栽培植物、さらにヒメジョオン、フランスギク、シロツメクサ、オランダガラシなどの帰化植物およびノアザミ、ウツボグサ、オカトラノオなどの土着草本、ときにイボタノキ、ウツギ、クリ、などの木本の花にもよく集まる。盛夏のころは低地では吸蜜植物も少なくなり、ヒャクニチソウやキュウリなどの草本性の栽培植物のほか、ミソハギやスベリヒユのような耕地雑草の花を訪れる。秋には、コスモス、マリーゴールドなどの栽培植物、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、セイタカアワダチソウ、などの帰化植物、

さらにヨメナ、アキノタムラソウ、キツネノマゴ、ママコノシリヌグイ、ミゾソバなどの土着あるいは“史前帰化植物”の花に集まるのを見ることが多い。本種の吸蜜植物は日本産の他モンシロチョウ属各種に比べて土着の野生植物よりも栽培植物または帰化植物の占める割合が高く、このこともこの蝶が人工的環境によく適応していることを示している。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

人里に近い雑木林の周辺、農道や用水路沿いの草むら、古い農家の庭、堤防や鉄道線路の土手、水田、駐車場の陽だまりなどに残されたススキ群落などのほか、オオヒカゲが生息する大型のスゲ類を伴う湿地などにも発生する。一般にコジャノメやリュウキュウジャノメに比べると生息地はより開放的な環境である。日本産コジャノメ属3種のなかではもっとも人為的環境に適応し、水田にもごく普通に発生しているのは本種のみである。盛夏のころは、成虫が酷暑を避けて、コジャノメの見られるような薄暗い林内に移動していることもある。

② 食餌植物

食草としてしられるものはイネ、タケ、カヤツリグサの3科に属するものである。

イネ科：イヌムギ、エゾムギ、ニワホコリ、オヒシバ、ネズミノオ、イネ、ヒメノガリヤス、シバ、イヌビエ、**エノコログサ**、ムラサキエノコロ、アキエノコログサ、チジミザサ、メヒシバ、**チガヤ**、ススキ、アシボソ、アブラススキ、オオアブラススキ、ジュズダマ、

タケ科：ハチク、クロチク、カンチク、メダケ、ネザサ、アズマネザサ

カヤツリグサ科：**カサスゲ**、シラスザ、ミヤマシラスゲ、ヒメスゲ、カワラスゲ、テキリスゲなどが報告されている。

以上の植物のなかで幼虫がよく見つかるものは、まず、ススキ、ジュズダマ、チガヤ、カサスゲ、シラスゲなどである。

③ 吸蜜植物

アンズ、モモ、ナシ、カキ、ブドウ、イチジク、キュウリなどの腐果によく集まり捨てられたスイカの果肉、タマネギの切はし、奈良漬、すき焼きの汁などにもよく飛来する。クリ、コナラ、クヌギ、アラカシ、**コゴメヤナギ**などの樹液に飛来することもある。アカシマ、**ヤナギ**、アヤメなどの切株から浸出する液を吸った例も観察されている。

1 卵群中の卵数と卵群数																
1 卵群中の卵数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	13	19	21	
産卵植物と卵群数																
イネ科・カヤツリグサ科		109	51	31	21	11	10	8	5	4	1	1	3	1	1	
その他の植物		38	20	15	7	5	3	3	0	0	1	1	0	0	0	
計		147	71	46	28	16	13	11	5	4	2	2	3	1	1	

(清邦彦, 1965から改写)

イネ科・カヤツリグサ科植物への産卵回数と卵数																	
産卵植物	メヒシバ	アキノエノコログサ	コメヒシバ	オヒシバ	チカラシバ	イヌムギ	カサスゲ	シラスザ	ネズミノ	ジュズダマ	種名不詳	イネ科	ヒメスゲ	カヤツリグサ	カヤツリグサ科	計	
											計						
産卵回数	97	65	16	14	12	6	5	3	3	2	2	1	20	349	8	2	10
卵数	286	213	38	37	27	18	9	13	4	6	2	8	52	971	18	4	22

(清邦彦, 1965から改写)



2. メヒシバに産付された卵

1. 葉上で睡眠中の夏型♀ (触角を水平に下げている)



3. 初齢幼虫とメヒシバに残された食痕



4. シラスゲと終齢幼虫 (緑色型)



5. ススキの葉裏に蛹化 (緑色型)



6. 水路の周辺の生息地

1. 静岡県 77. 8. 1	4. 静岡県 73. 4. 19
2. 静岡県 82. 9. 5	5. 静岡県 73. 4. 23
3. 静岡県 82. 9. 9	6. 静岡県 84. 4. 23

出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

ゴマダラチョウ属はヒマラヤから日本にかけての東アジア地域に分布し、生態的にもオオムラサキ属やコムラサキ属に近い。ニレ科植物を食樹としている。日本では北海道南西部から本州、四国、九州にかけて広く分布し離島では佐渡島、対馬などが知られている。

本州中部などの暖地では5月下旬～6月中旬、7月中旬～8月上旬、9月上旬～下旬の3回にわたって羽化するが、年によっては第3回目の成虫の個体数は少ないことがある。

一般によく開けた地形を好み、丘陵地や沖積平野に多い。食樹のエノキまたはエゾエノキを含む雑木林に生息し、しばしば社寺の森、公園、農家の庭、学校の校庭などにも発生する。深い峡谷のようなところにはほとんど見られなくなり、オオムラサキとおきかわることが多い。都市化が進み、また都市近郊の二次林が伐採されると、オオムラサキの場合は顕著に数を減ずるが、本種の場合はこのような傾向はみられず、都市の駅裏付近や繁華街の中にある神社の境内などに毎年たえることなく生活しているところを見ると、生活環境の変化(悪化)にかなり抵抗力をもっていることがうかがわれる。

② 食餌植物

食樹としてもっともとく利用されているものはニレ科のエノキであるが、本州の山岳地帯や北海道のような寒冷地ではこれにかわってエゾエノキが食樹となる。

③ 吸蜜植物

食物としてもっともおもなものは樹液で、クヌギ、コナナをはじめクリ、ナラガシワ、カシワ、アラカシ、コゴメヤナギ、エノキ、エゾエノキ、ハルニレ、ハンノキ、タブノキ、アカメガシワ、などの樹液に飛来する。カキ、イチジクなどの腐果を訪れることもある。雌雄とも地上で吸収することがあるが、この習性は一般にオオムラサキやコムラサキほど強くないようである。花を訪れて吸蜜することは稀であるが、カラスザンショウ、ヌルデ、ヤマウコギなどで吸蜜した記録が報告されている。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

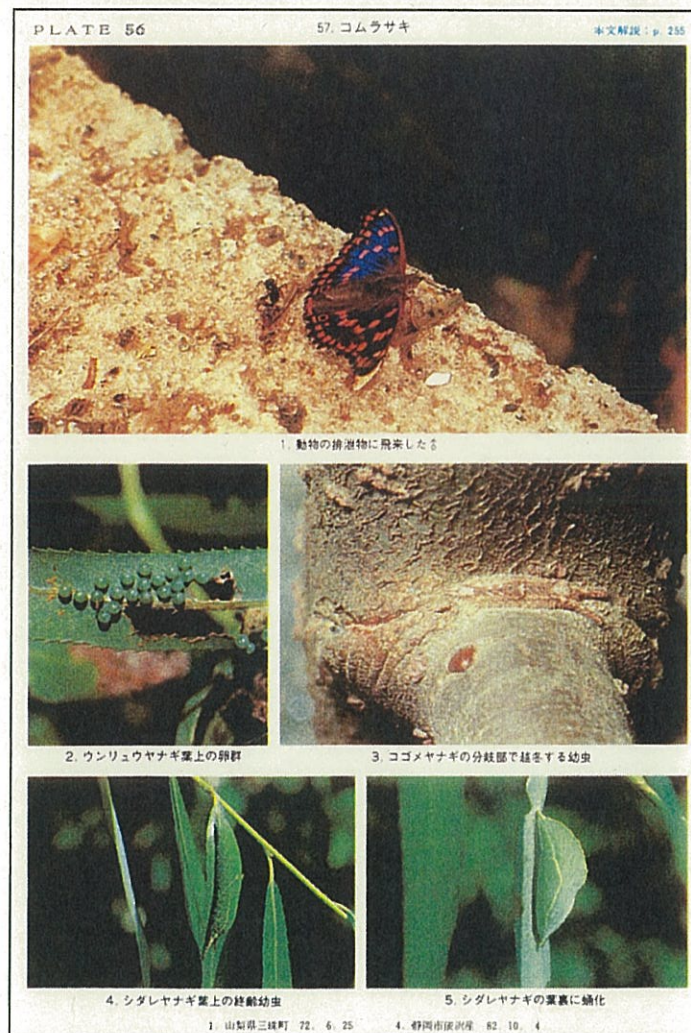
本州中部の暖地では、5月下旬～6月中旬、7月中旬～8月中旬、9月中旬～10月上旬にかけて年3回羽化するが、3回目の羽化は部分的で、ことに低温の続く年には少なくなる傾向がある。もっとも個体数の多いのは河川に沿ったヤナギ類の林で、ことに流路が蛇行し、河原のよく発達している中流域には発生地が多い。富士山麓のようなバッコヤナギの群落の発達する火山礫原にも多産する場合がある。一方、人為的環境にもかなりよく適応しており、水田地帯の水路に沿って植えられたシダレヤナギや都市の公園や街路樹となっているシダレヤナギやウンリュウヤナギなどにも発生することがある。

② 食餌植物

ヤナギ科植物に限られ、ヤナギ属ではバッコヤナギ、アカメヤナギ、コゴメヤナギ、オノエヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ネコヤナギ、エゾノカワヤナギ、シダレヤナギ、ウンリュウヤナギ、ヤマナラシ属ではドロノキ（ドロヤナギ）、ヤマナラシ、ポプラなどが食樹となる。

③ 吸蜜植物

コゴメヤナギなどのヤナギ類、クヌギ、コナラなどの樹液によく集まり、ひは犬、牛、馬糞などの動物の排泄物、人の汁などにもよく飛来する。またひは開けた河原や路上の湿地に降りて吸水することも多い。花を訪れることはきわめて稀であるが、ナス、ジャガイモ、リョウブ、ヘチマ、フヨウ、ヤブガラシなどの吸蜜記録がある。その他スイカの皮、アブラムシの分泌物などに飛来した記録がある。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

関東、中部地方の低地では年3回(夏型は6月上～中旬、および7月～8月、秋型は9月～10月に羽化)発生する。

本州中部では海岸に近い平地から亜高山帯下部にかけて生息する。おもな生息地は丘陵地帯から標高1500mぐらいまでの雑木林である。生息地の林は真夏でも薄日がもれる程度で、このような林床や林縁に生えたサルトリイバラなどが幼虫の食餌植物となる。また、神社、寺院、墓地、公園、人家の庭にユリ科とくにホトトギスなどが植栽されている場所には市街地にも発生する。このような所ではとくに秋に多く見られる。水田地帯や深い森林、高山帯は発生地としては不適當である。越冬した成虫は畑や明るい草地、荒地などにも現れ、日光浴をする。

② 食餌植物

タテハチョウ科の中では例外的ともいえる単子葉植物のユリ科が幼虫の食餌植物となっている。日本ではホトトギス属(ホトトギス等)、ユリ属(カノコユリ、オニユリ、ヤマユリ)等で、九州本島以北はサルトリイバラがもっとも主要な食草となる。

③ 吸蜜植物

夏型はコムラサキ、オオムラサキ、スミナガシなどとともにクヌギ、クリ、コナラ、ミズニラ、アカガシ、アラカシ、**コゴメヤナギ**、など樹液に好んで飛来する。またクヌギなど樹液に好んで飛来する。またクヌギなどの樹幹に下向きにとまっていることも多い。



出典: 原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

静岡県などの本州中部の暖地では年4回程度の発生となり、成虫は3月下旬から10月下旬ごろまで出現する。日当りのよい河原や堤防、耕作地周辺の草地、休耕地、レンゲ畑、伐採あとの低木を含むブッシュ、運動場や飛行場などの芝生、牧草地などに生息する。本来の生息地は河原のようなところと考えられるが、人工的または半人工的環境によく適応した種であり、近年牧草地の拡大や山岳道路の法面へのシロツメクサの植えつけなどにより生活圏を広げている。

② 食餌植物

マメ科植物の蕾、花を主な植物とし、新芽や葉も食べる。普通に利用されているものはコマツナギ、レンゲ、シロツメクサ、ナンテンハギ、ヤマハギなどであろう。これらの植物はすべて陽生の草本または小低木で、多くは本種の生息地の性格を特色づけるものである。レンゲ、コメツブウマゴヤシ、ウマゴヤシ、シロツメクサ、アカツメクサなどは帰化植物、ミヤギノハギ、ササゲ、インゲンマメ、ダイズ栽培植物で、本種の人工的環境への進出を支えているものといえる。母蝶がよく産卵するのはヤハズソウ、カナムグラの花穂に産卵した記録がある。

③ 吸蜜植物

吸蜜は好んでいろいろな花に集まり、静岡県三島市における観察(4月～10月)、18種が吸蜜植物として記録されている。

ツバメシジミの吸蜜回数(吸蜜個体数)					
シロツメクサ	285 (78)	タンボポ, sp.	16 (5)	ムラサキサギゴケ	2 (2)
ヘビイチゴ	104 (14)	ヤブジラミ	14 (4)	ジシバリ	2 (2)
オオイヌノフグリ	89 (15)	コマツナギ	5 (3)	ヤハズソウ	2 (1)
カタバミ	43 (10)	カラスノエンドウ	4 (4)	ヒメジソ	2 (1)
ヒメジョオン	29 (18)	キキョウソウ	4 (3)	ハコベ	1 (1)
キツネノマゴ	28 (5)	メドハギ	3 (1)	オオアワダチソウ	1 (1)

1961年4～10月、静岡県三島市における観察記録(高橋真弓, 1963より改写)

全体としてシロツメクサが主要な吸蜜植物となっている。季節的には4月は主として、オオイヌノフグリとヘビイチゴ、5月にはこれらの植物からシロツメクサに移ることが多くなり、6月～7月には主としてシロツメクサ、9月～10月にはキツネノマゴ、ヤハズソウ、ヒメジソなどの花を訪れることが多く見られた。



出典: 原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

本州中部から鹿児島県にかけては標高約 500m以下の地が主な生息地となる。長野県の平野部での羽化のピークは6月20日前後、8月5日前後、9月17日前後の3峰性でおそらく年3回(6月～7月上旬、8月、9月～10月)の発生と考えられる。

本種がもっとも好んで生息するのは、鉄道線路などの土手、河川や堀の堤防、人家や学校、神社などの周辺の空地、墓地、路傍など丈の低い草の生えた陽地である。このようなところは主要食餌植物であるカナムグラの繁殖地である。したがって溪谷や樹林の発達した薄暗い環境は好まない。

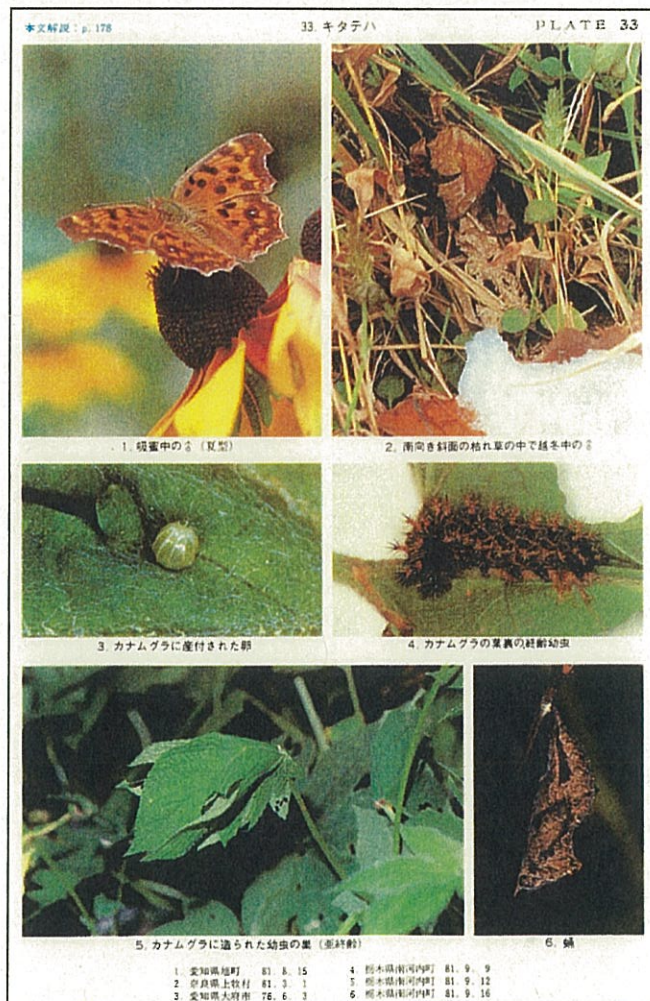
② 食餌植物

北海道から九州にかけて、および種子島ではクワ科カラハナソウ属の**カナムグラ**がもっとも主要な食餌植物となる。

③ 吸蜜植物

夏型はクヌギ、コナラなどの樹液に集まったり、ヒメジョオン、オカトラノオ、イボタノキ、ケイトウ、ヤツデ、マーガレット、**シロツメクサ**、ウツギ、**ネズミモチ**などの白・黄・紫色系の花で吸蜜し、汚物、アブラムシの分泌物、動物の死体、排泄物などを吸うこともある。地面で吸水する習性は同属のシータテハほど強くない。

秋型はソバ、ヤツデ、ヨメナ、ノコンギク、タイアザミ、ブッドレア、ヒヨドリバナ、コスモス、キバナコスモスなどの花を訪れ、キク科を好む習性が見られる。都市部では最近**セイタカアワダチソウ**の花に飛来する個体をよく見るようになった。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

東洋の熱帯を中心に、南北の温帯域になで広く分布するが、日本は分布の北限に位置する。東海、近畿地方では11月下旬～12月上旬の降霜と第1回目の寒波によってほぼ姿を消す。第1回目の成虫の出現ピークは東海・近畿地方では6月中旬で、秋型の出現する9月下旬まで、その間にだいたい2回の発生が推測されるが、詳しい調査記録はない。

② 食餌植物

本州、四国、九州の暖帯ではネムノキ（とくに幼木）をもっとも好み、ネムノキを欠くやや寒冷な地方ではハギ類につくことが多い。また河川堤防や畑地周辺などの開かれた場所に生息する場合はメドハギやクサムネが主に利用される。その他にマメ科ではニセアカシア（ハリエンジュ）、ハマエンジュ、エビスグサ、サイカチ、ナンバンサイカチ、ビルマネム、ハマセンナ、モクセンナ、オオコチョウ、**ヤハズソウ**、マルバヤハズソウ、ウマゴヤシ、コマツナギ、ハイメドハギなど。

③ 吸蜜植物

種々の花で吸蜜するほか、夏期は湿地や河原などで Pumping を伴う吸水や獣糞から吸汁する行動が盛んで、このような習性はみに特徴的で、しばしば群れを形成する。

マメ科のマルバハギなどのハギ類、**クサネム**、エビスグサ、レンゲソウ、ナンキンマメ、バラ科のヘビイチゴ、シャリンバイ、カジイチゴ、エドヒガンなどのサクラ類、キク科のノアザミ類アレチノギク、ヒメジョオン、センダングサ、セイヨウタンポポ、シソ科のニガクサ、トウバナ、ハナトラノオ、その他タチツボスミレ、などのスミレ類、イヌタデ、ゲンノショウコ、キツネノマゴ、ムラサキカタバミ、イヌザンショウ、**ミソソバ**、オカトラノオ、ヤマラッキョウ、ノリウツギなどが知られている。



出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

第1回目(越冬世代)の羽化は6月上旬、第2回目の羽化は7月中旬、第3回目の羽化は8月中旬～9月中・下旬で8月22日～24日ごろ最盛、第4回目の羽化は9月中旬～10月中旬で、第3回目羽化したものの中から生ずるという。(京都市の例)

おもに耕作地周辺、河川堤防、路傍、山間の日当りのよい草地に生息する。ときに水田とは異なった河畔、池畔のヨシ、マコモ群落に多数の成虫が見られ、主要な生息地となっていることがある。増殖第二世代は水田に発生し、ときに稲作の大害虫となる。

② 食餌植物

つぎに示すように既発表・未発表の多くの食草がある。これらは産卵対象となるもの、一時的に利用するもの、季節的に変換するもの、全齢期を通して利用するものなどが混乱しており、その実態は不明な部分が多い。

イネ科：イヌムギ、コムギ、ホソムギ、ウシノケグサ、スズメノカタビラ、カゼクサ、オヒシバ、ムラサキヒゲシバ、ダンチク、ヨシ、セイタカヨシ、マコモ、クサヨシ、シバ、イネ、トダシバ、イヌビエ、エノコログサ、アキノエノコログサ、ササキビ、スズメノヒエ、メヒシバ、アキメヒシバ、チガヤ、ススキ、オオアブラススキ、ササガヤ、サトウキビ、セイバンモロコシ

タケ科：ネザサ、アズマネザサ、ハチク、メダケ

カヤツリグサ科：シラスゲ、ミヤマシラスゲ

本種はイネ科を広く食餌とするが選好性も認められ、高橋真弓(1983)はオヒシバに産卵したものにヌカキビを与えたところまったく食べず、アキメヒシバを好んで摂食した。

③ 吸蜜植物

訪花習性はきわめて強く、草本、木本あるいは野生種、栽培種を問わず多くの花に飛来して吸蜜する。訪花植物は知られているだけでも45科150種におよぶ、世代ごとに主な訪花植物を列記する。

第1回目成虫(6月上旬)

ムシトリナデシコ、ダイコン、(南西諸島)、ムラサキカタバミ、キランソウ、ウツギ、ヒメウツギ、ウツボグサ、アカツメクサ、シロツメクサ、カノコソウ、セイヨウタンポポ、ノアザミなどのアザミ類、ネギ。

第2回成虫(7月中旬)

イタドリ、イノコヅチ、オシロイバナ、アメリカナデシコ、キンボウゲ、クレオメ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、ホウセンカ、ヤブガラシ、リョウブ、オカトラノオ、ブッドレア、アサガオ、ウツボグサ、クガイソウ、アカツメクサ、シロツメクサ、コマツナギ、ノハラクサフジ、ザクロ、コシアブラ、ミツバ、ハナウド、マツムシソウ、キュウリ、ヘチマ、カボチャ、タイアザミなどのアザミ類、キオシ、シラヤマギク、ハンゴンソウ、ヒャクニチソウ。

第3回目成虫(8月中旬～9月中・下旬)

イタドリ、スベリヒユ、センニチソウ、ケイトウ、イノコヅチ、ノウゼンハレン、サラシナショウマ、カラスザンショウ、ヌルデ、ホウセンカ、フヨウ、ムクゲ、チャノキ、コフジウツギ、イケマ、ブッドレア、フロックス、サツマイモ、ナス、キツネノマゴ、ヤマハッカ、ゴマ、ノウゼンカズラ、マルバハギなどのハギ類、ヤブツルアズキ、クズ、アカツメクサ、ツルフジバカマ、アベリア、オミナエシ、オトコエシ、キュウリ、ヘチマ、ヒャクニチソウ、マリーゴールド、ヨツバヒヨドリ、ノコンギク、ヨメナ、ツワブキ、ニラ、ホトトギス

イチジクなどの腐果、熟果、また鳥獣糞などでも吸汁し、自分の排泄物にとかして再吸収する動作(吸いもどし)も見られる。



2. 早朝、イネの葉上で産をかわかす移動世代の新成虫群



3. 産付直後の卵



4. 枯れ草の中で越冬中の幼虫



5. 終齢幼虫



6. 越冬世代の蛹 (カサスガ)

1. 美濃白鳥池市	79. 9. 2	4. 奈良県橿原市	79. 7. 12
2. 奈良県橿原市	82. 8. 27	5. 奈良県橿原市	82. 8. 29
3. 愛知郡大府市	74. 9. 29	6. 大府市西区	80. 5. 7

出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

熱帯から亜熱帯にかけて広く分布しきまった越冬態がなく、土着地域では年中発生をくり返している。強大な飛翔力をもち、海を越えて遠距離を移動する習性がある。

分布北限の千葉県房総半島やこれに近い静岡県伊豆半島などの越冬地は年6回程度の発生をくり返す。第1世代は主に1月～4月、第2世代は5月～6月、第3世代は7月～8月、第4世代は8月下旬～9月下旬、第5～6世代は10月中～下旬ごろ。

マメ科の栽培植物に見られる畑が主要な生息地となる。とくに本種が好んで発生するのはエンドウ（特にキヌサヤエンドウ）早生ソラマメ、ササゲ、アズキ、フジマメなどのマメ類畑である。観賞用植物のノボリフジ類の栽培されている畑やミヤギノハギなどのハギ類が栽培されている庭園にもよく発生する。個体数の増加する夏の終りから秋にかけては野生のマメ科植物の花の見られる路傍や伐採地のマルバギク、クズ、ノアズキ、ヤブツルアズキなど、本種の生息地が人間生活と強い関わりをもっていることがわかる。

② 食餌植物

マメ科植物を基本的な食餌植物としており、本種の食草としてとくに重要な意味をもつものはタヌキマメ、ハギ、レンゲソウ、エンドウ、ササゲ、アズキ、ナタマメ、**クズ**、ノアズキ、フジマメ、ノボリフジこれらの植物のうちフジマメ（フジマメ属）の花は、本種の成虫に対するきわめて強い誘引物質を含み、成虫の個体数のごく少ない盛夏の時期にも、成虫を確実に誘引することができる。「静岡市の郊外の住宅地に栽培されたフジマメの一つの花穂（3個の蕾と4個の花からなるもの）に、計84個の卵が産付され、とくに3個の蕾への集中的な産卵が見られた。（1983年10月7日高橋真弓、未発表）」。

③ 吸蜜植物

好んでいろいろな花を訪れるが、種類数では食餌植物を含むマメ科植物がもっとも多く、キク科がこれに次いでいる。

主要な吸蜜植物

キク科：ハルノノゲシ、ツルニガナ、ヤクシソウ、コウゾリナ、センダングサ、**コセンダングサ**、シロバナセンダングサ、アメリカセンダングサ、**ノコンギク**、リュウノウギク、ヤグルマギク、オオアレチノギク、ヤマハハコ、タイアザミ、ノハラアザミ

シソ科：アキノタムラソウ、ヤマハッカ

ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ

ナス科：クコ

マツムシソウ科：マツムシソウ

キツネノマゴ科：キツネノマゴ

オミナエシ科：オミナエシ、オトコエシ

ツバキ科：チャノキ

カタバミ科：カタバミ、ムラサキカタバミ

ユキノシタ科：チダケサシ、テリハアカショウマ

マメ科：クロタリア、アフリカタヌキマメ、オオミツバタヌキマメ、ハナズオウ、マルバハギ、ミヤギノハギ、ヤマハギ、**メドハギ**、ソラマメ、カラスノエンドウ、ノハラクサフジ、ナンテンハギ、ハマエンドウ、エンドウ（各品種）、アカツメクサ、**シロツメクサ**、レンゲソウ、ミヤコグサ、シロバナミヤコグサ、ハマアズキ、ササゲ、アズキ、ヤブツルアズキ、オオヤブツルアズキ、インゲンマメ、**ヤブマメ**、ハマナタマメ、ナタマメ、**クズ**、タイワンクズ、ノアズキ、ダイズ、フジマメ、アメリカデイゴ（カイコウズ）、ノボリフジ（キバナノハウチワマメ）、カササキルビナス

バラ科：キンミズヒキ

アブラナ科：ダイコン

ヒユ科：ケイトウ、ノゲイトウ、イノコズチ

タデ科：ソバ、ミゾソバ、イヌタデ、オオイヌタデ



1. ヨモギの葉上で日光浴中の♂



2. フジマメの花蕾に産付された卵



3. キヌサヤエンドウの果実を食べる終齢幼虫



4. 竹筒の中で蛹化



5. 生息地 (キヌサヤエンドウの畑)

1. 静岡県富士市 71. 10. 20
2. 静岡県 83. 10. 7
3. 静岡県東伊豆町産 82. 12. 20

4. 静岡県産 83. 10. 7
5. 静岡県東伊豆町 82. 12. 19

出典：原色日本蝶類生態図鑑
保育社

① 生息地

アキアカネと並んで日本の赤トンボを代表する標準的体形のアカトンボ。アキアカネに似ている。国内では北海道、本州、四国、九州に分布していて奄美大島などの離島にも産する。国外では朝鮮半島から中国中部、台湾などに分布している。

おもに平地や丘陵地、低山地の抽水植物が繁茂する池沼や湿地、水田、溝などに生息するが、白馬岳神の田圃（標高約 1,900m）のような高いところでも記録がある。しばしば市街地の社寺境内の池など人工的な小水域にもすんでいる。

② 発生

成虫は東海地方では 6 月上旬から出現して 12 月中旬ころまでみられる。未熟な個体は夏のあいだ羽化水域からあまり遠くない木立などに分散してひっそりと生活し、アキアカネのように集団で移動したり派手な行動をしないためあまり人目につかない。夏がすぎてようやく秋の気配が色濃くなると、まっ赤に色づいた成熟成虫が田圃のまわりや池の辺りに姿を現わす。

③ 特記

夏（にみられる）あかね色のトンボの意。最初は夏の頃にみられる黄色っぽい色をした未熟な個体を感覚的によんでいた一種の俗称的呼び名だったが学名をもつ特定種をさす和名におきかえられ現在にいたった。



ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* 連結産卵（右：♂）
1987. 11. 11 高知県大月町 S

① 生息地

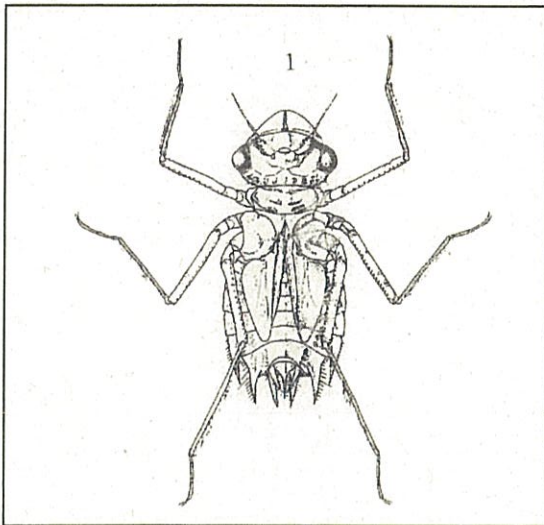
全トンボ類中でもっとも分布域の広いといわれる種類で、国外では世界中の熱帯、亜熱帯および温熱帯に分布している。主に平地や丘陵地の池沼や水田、溝川などに生息し、一時的な水たまりにも生育する。また都市公園の噴水池や学校の水泳プール、街中の貯水槽などにも見られることがある。

② 発生

八重山諸島では周年みられ1月にも野外で羽化が観察されるという。三重県では5月上旬、中旬頃、おびただしい数が現れるのは7月の盆の頃からである。東北地方や北海道では8月～9月に現れるが、個体数は著しくない。

③ 特記

和名は薄羽黄トンボの意で形態的特徴に由来している。お盆の頃に多くみられることから、信心深い昔の人はこれを(精霊)セイレイトンボとかショウリョウトンボ、ショウライ(招来)トンボ、ボン(盆)トンボあるいはホトケトンボなどとよび「ご先祖様の霊がトンボにのって盂蘭盆会いに里帰りされた」として大切に迎え、採ったりいじめたりすることを強くいしました。



ウスバキトンボ *Pantala flavescens* ♂ 1987.5.4
沖縄県西表島 1

出典：日本産トンボ幼虫・成虫
東海大学出版会

① 生息地

国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、南千島の国後島、奥尻島、佐渡島などの離島にも産する。おもに丘陵地や低山地の水田地帯や湿原のゆるやかな流れになど生息し、幼虫はよどみに沈積した植物片の陰や柔らかい泥の上にうずくまって生活している。

② 発生

成虫は東海地方では6月下旬から出現して12月初め頃まで見られ、羽化はおおむね夜間に抽水植物の茎や葉裏に定位して行ない、羽化した新成虫は朝方に飛びたっていく。

③ 特記

和名は深山にすむアカネ(茜)色をしたトンボの意だが深山よりむしろ里山のふもとに多い。



ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* 未熟♂
1986. 7. 31 三重県四日市市 I

出典：日本産トンボ幼虫・成虫
東海大学出版会

④ 評価

調査の結果、蝶は13種、トンボは3種確認した。この中には絶滅危惧種等は確認されていないが、一生を植物に依存する蝶は調査地区に生育する植物との深い関わりが見られる。本種だけを対象にしても遊水地の多様性が推察される。

蝶と植物の関わりを表にまとめる。

「注」 — 食餌植物 ■ 吸蜜植物

種 名		出現地区	植物との関わり
1	ヤマトシジミ	No. 1、No. 5	シロツメクサ、アキノノゲシ、コセンダングサ
2	モンキチョウ	No. 2、No. 3 No. 5、No. 6	シロツメクサ
3	モンシロチョウ	No. 4	スカシタゴボウ、コセンダングサ
4	ヒメジャノメ	No. 5	エノコログサ、チガヤ、カサスゲ、コゴメヤナギ
5	ゴマダラチョウ	No. 5	コゴメヤナギ、エノキ
6	コムラサキ	No. 5	コゴメヤナギ、シダレヤナギ、その他ヤナギ類
7	ルリタテハ	No. 5	コゴメヤナギ
8	ヤマトシジミ	No. 5	
9	ツバメシジミ	No. 5	シロツメクサ、ヤハズソウ、カナムグラ、メドハギ、ヒメジソ
10	キチョウ	No. 6	ヤハズソウ、クサネム、ミゾソバ
11	キタテハ	No. 6	カナムグラ、シロツメクサ、ネズミモチ、セイタカアワダチソウ
12	イチモンジセセリ	No. 6	ヨシ、アキノエノコログサ、アキメヒシバ、チガヤ、シロツメクサ、イタドリ
13	ウラナミシジミ	No. 7	クズ、コセンダングサ、ノコンギク、メドハギ、シロツメクサ、ヤブマメ、クズ

4. 保全対策

植物と蝶とトンボの保全対策を挙げる。

(1) 植物

遊水地で土地の改変が行われれば、動植物への負荷は避けられない。遊水地の将来目標は生物の多様性であり、生物の多様性は土地の多様性から創出される。保全したい植物は絶滅危惧種のタコノアシ、ウスゲチョウジタデ、ミゾコウジュ、珍しい植物ではサクラタデ、コガマ、アカメヤナギである。これらの植物を保全するには、現在の生育基盤に近い場所への移植、または種子を採取し、播種することが保全対策となる。

特に 8 地区に生育するコゴメヤナギはこの付近のランドマークとなり、昆虫や鳥類と深い関わりがある。このため、移植地の選定や移植作業は慎重な対応が望まれる。

(2) 蝶とトンボ

① 蝶

確認された蝶の食餌、吸蜜植物は改変される土地の周辺には個体数も多く、群落を形成する種もある。このため蝶への対策は必要としない。

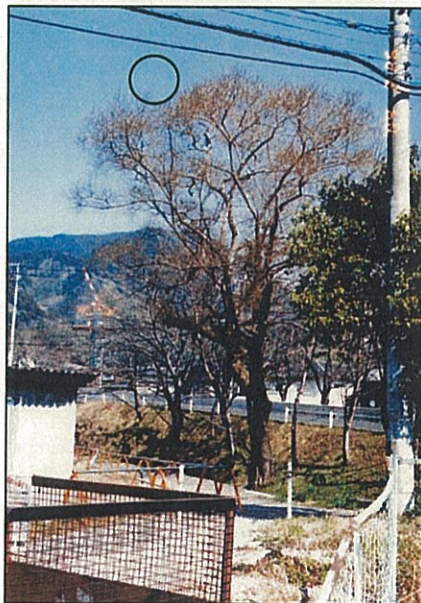
② トンボ

土地の改変によってトンボが負荷を受ける地区はNo.7地区である。しかし、この場所は池底の多様性を創出するための掘削が行われる。この掘削はトンボに限らず良好な水環境を必要とする魚類等への環境改善が期待される。このためトンボへの対策は必要としない。蝶とトンボへの保全対策は一日も早く整備が完了し、安定した環境が確保されることである。この視点にたって「保全対策は考えにくい。」とした。

(3) コゴメヤナギの保全対策

① コゴメヤナギの生育地

本種は観測舎付近の法面と鋼橋の上流にそれぞれ 2 株ずつ生育している。モニタリング調査で第 3・4 工区を調査したが遊水地内では数少ない種である。しかし、巴川の上流（静岡市北地先・準用河川猿田川の土手）には目通 1.0m 以上、樹高約 15.0m の大木が生育し、これが母樹と思われる。また、下流の前林地先と漆山地先には数株生育し、これらはルリタテハ、ヒメジャノメをはじめ多くの昆虫や野鳥の生息場所にもなっている。



○印はコゴメヤナギの大木
(静岡市北地先)



保全対策が望まれるコゴメヤナギ
(観測舎付近)



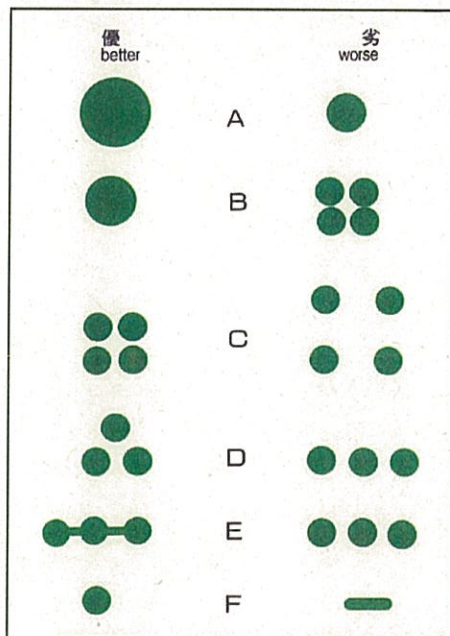
同 左
(鋼橋の上流付近)

② コゴメヤナギの生態的位置づけ

本種の移植について生態的な位置づけを考える

・ 生物生息空間形態と配置

生物の生息空間の形態と配置の考え方について、A～Fの6つの原則を踏まえることが、最も効果的であることダイヤモンド (Diamond.J.H1975) 等による実証的研究によって明らかにされ、国際自然保護連合が提唱してる。この事例を参考にする。



A. 生物の生息空間はなるべく広いほうがよい。

B. 同じ面積なら分割された状態よりも一つのほうがよい。

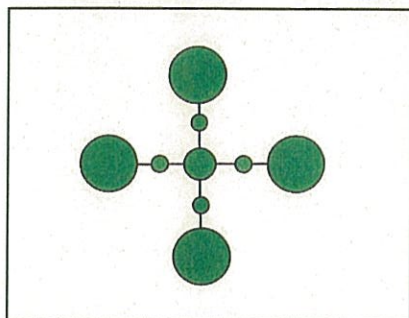
C. 分割する場合には分散させないほうがよい。

D. 線状に集合させるより、等間隔に集合させたほうがよい。

E. 不連続な生物空間は生態的回廊 (コリドー) でつなげたほうがよい。

F. 生物空間の形態はできる限り丸いほうがよい。

この6つの原則を一言に集約すると「高次消費者が生息可能な良質な生物空間をより広い面積で、より円形に近い形で塊として確保し、それらを生態的回廊で相互につなぐことが最も効果的なビオトープ (野生生物の生息場所) の形態及び配置の仕方である。



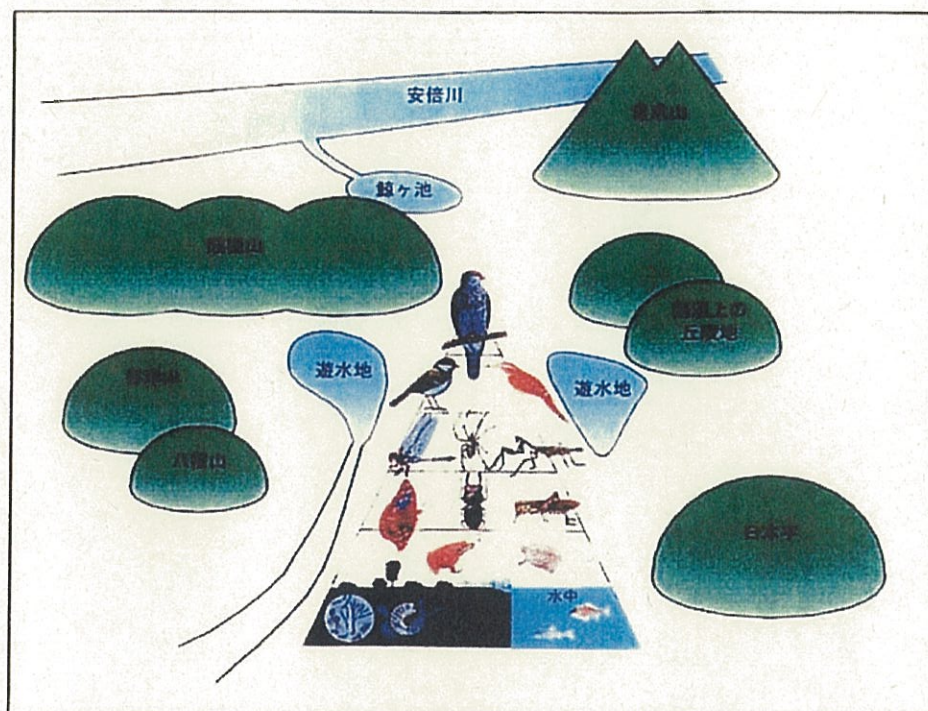
良い自然はより広い面積を、より円形に近い形でかたまりとして残し、それらを緑道でつなぐのが最も効果的。

出典：ビオトープネットワーク

(財) 日本生態系協会

③ 生息場所の充実

本種の移植は昆虫や野鳥にとって極めて関わりの深い作業である。このことを踏まえ、移植によって本工区の野生生物の生息場所の充実と周辺地域への回廊づくりへと発展させたい。具体的には遊水地を拠点にして南沼上の丘陵地、賤機山、鯨ヶ池、安倍川、日本平などとの連続性を意識しつつ野生生物の生息場所を充実させ、その質も向上させたい。



遊水地と周辺地域との連続性の模式図

④ 移植場所の検討

移植場所の選定は、生息場所の充実、視点場への配慮、緑陰の確保の3つを条件とする。

- ・ 生息空間

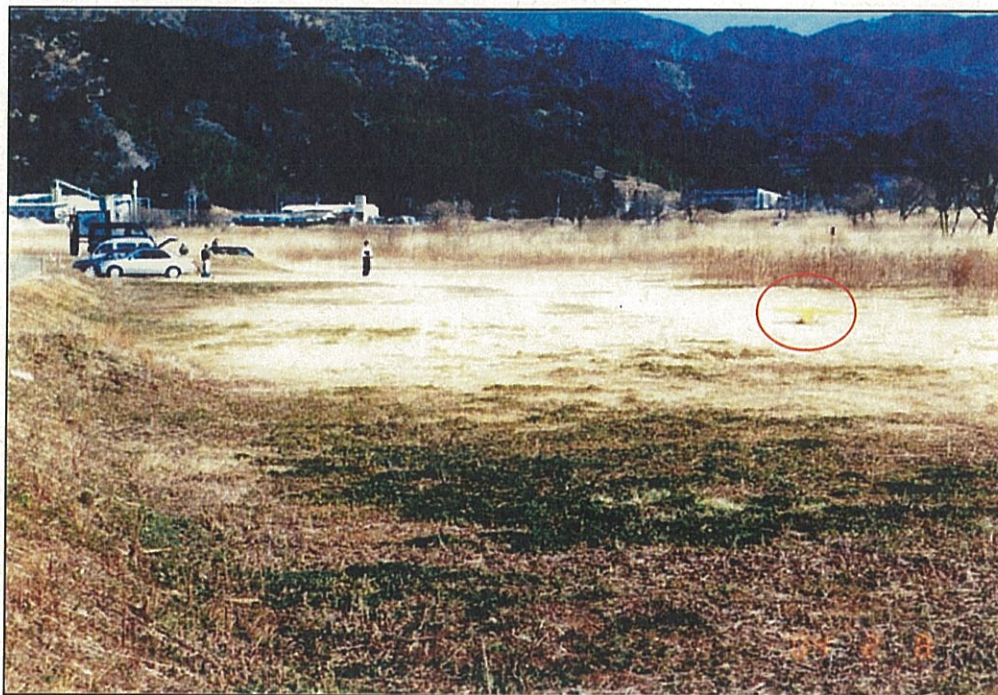
生物の生息空間では「A、生物の生息空間はなるべく広いほうがよい。」から4株を一つの空間としてまとめたい。

- ・ 視点場の充実

本工区への視点場は観測舎が唯一眺望の良い場所である。このため観測舎の周辺からは遠ざけ眺望を拡げたい。

- ・ 緑陰の確保

本工区では数多くのヤナギ林が育っているものの、小学生などグループで利用する人たちが日陰で休息できる場所は少ない。また広大な芝生地がありながら日陰がないためこの地区で休息する人もない。このため芝生地に緑陰を確保したい。「注」この場所では模型飛行機を飛ばし、野鳥が寄りつかない等の苦情もある。



模型飛行機の愛好家たち ○印模型飛行機
平成 16 年 2 月 8 日（日）撮影

⑤ 移植場所の選定

移植場所は静岡市が緑地として整備する区域と隣接した場所である。ここに植えられる4株を生物の生息拠点として今後の植栽につなげたい。植栽される樹種は本工区に育つヤナギ類の苗木の移植で十分である。



○観測舎 ●移植候補地



現在セイタカアワダチソウ群落が広がっているが、早期に刈取ればレクリエーションや休息地としての利用性が高まる。

IV. 配布冊子の作成

麻機遊水地の自然

シリーズ 1 野鳥

目 次

	頁
1. 作成の目的	1
2. テーマ	〃
3. 企画・構成	〃
4. 編集方針	〃
5. 印刷仕様	〃
6. レイアウト	〃
7. イメージ構成	3
(1) 第1回広報デザイナー（県嘱託）の助言	3～9
(2) 第2回広報デザイナー（県嘱託）の助言	10～17
(3) 第3回広報デザイナー（県嘱託）の助言	18～19

1. 作成の目的

遊水地事業のPR活動などで配布する資料（冊子）を作成する。

冊子は先に発行された麻機遊水地の自然等全般的に紹介した、『麻機遊水地に蘇る生きものたち』の内容を基に分野別に取りまとめ、遊水地の豊かな自然を紹介すると共に遊水地事業への啓蒙を目的とする。

2. テーマ

遊水地の動植物のうち、観察活動によって紹介できる分野は「野鳥」「植物」「昆虫・両生類・爬虫類」の3つの分野である。第1回目はシリーズⅠ野鳥をテーマにする。

3. 企画・構成

企画・構成は以下の視点で捉える。

- ① 麻機遊水地に豊かな自然が蘇っていること。
- ② 今まで観察されてきた200種の野鳥を紹介する。
- ③ 自然観察や学習に利用できる内容にする。
- ④ 野鳥の生態を解説する。
- ⑤ 野鳥の基礎知識（用語の解説と図鑑）が学習できる。
- ⑥ 遊水地に渡来している野鳥がどこで観察できるか案内する。

4. 編集方針

- ① 内容及び文章表現は、小学生高学年がほぼ理解できる内容とし専門的な用語には、ふりがなをふる。
- ② 用語解説の頁を設ける。
- ③ 写真や図版を多用し、ビジュアル性のあるものにする。（掲載写真：100前後）
- ④ 取り上げる野鳥には解説を付ける。（写真掲載できなかった残りのものについては、リストをつくりまとめて紹介する。）

5. 印刷仕様

- ① A5版、オールカラー、100頁前後、中とじ製本
- ② ページ構成（案）

6. レイアウト

(裏表紙)	(表紙)	はじめに	目次
案内図 アクセス方法	タイトル イメージ写真 発行者名	凡例	
		1	2

「麻機遊水地は 野鳥の宝庫」 自然が身近にある ことの大切さ 自然を守り育てる ことの重要性 3	4
---	----------

用語解説	鳥の各部の名称
5	6

バードウォッチング おすすめのポイント 7	8
---	----------

~

写真 9	写真 10
--------------------	---------------------

写真 11	写真 12
---------------------	---------------------

写真	写真
-----------	-----------

<table border="1"> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>													<table border="1"> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>												

さくいん	
-------------	--

7. イメージの構成

本イメージの構成を基に広報デザイナー（県嘱託）の助言を得る。

(1) 第1回広報デザイナー（県嘱託）の助言

日 時 平成15年11月6日（木）午前10時～11時

場 所 静岡県庁広報室

助言者 広報デザイナー 小出茂

助言の内容

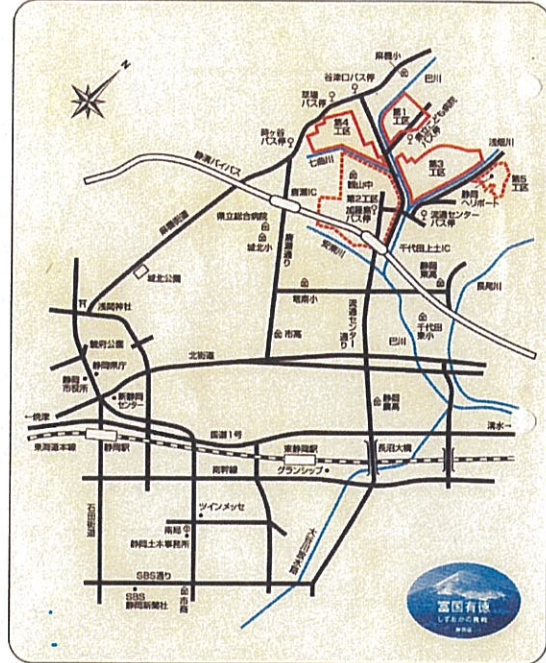
- ① シンボルとなるキャラクターをつくれれば楽しそうなイメージを持たせることができる。（今回は鳥で、次回は花でと言う具合にすればシリーズ物として統一でき、付加価値が付く。キャラクターは表紙に置くだけでなく本文中にも登場させるといい。）
- ② 「麻機遊水地の自然」という冊子タイトルを「自然保護」がイメージできるようなものにロゴ化（絵文字化）するといい。今後、植物編、昆虫編等の冊子と連続することも想定したデザインにしては。
- ③ 本文中はほとんど写真だけになるので表紙はイラストメインのデザインにしても良いかもしれない。
- ④ 「はじめに」からはじめる導入部は（P1～P2）、文字が多くなるのでバックにきれいな写真を配するなどビジュアルが欲しい。
- ⑤ 遊水地の自然を（P1～P6）の全面に出す。
- ⑥ 続く、麻機遊水地全体を紹介する頁（P3～P4）では背景として使える風景イラストがつくれるといい。
- ⑦ 「バードウォッチング」の頁（P7～P8）ではなるべく多くの野鳥が見られる場所を紹介するといい。
- ⑧ 9頁以降はキャラクターが解説するようにしてはどうか。
- ⑨ 鳥の大きさ、色等、すべての鳥において決まって説明する事項（P6）については、見出しを立てる、表組みにするなど、文字組みを工夫するといい。
- ⑩ 珍しい鳥、絶滅危惧種などをマークでもわかるように編集したらいい。
- ⑪ 特記したい事項があれば「鳥博士」の「尾も白（おもしろ）解説」のようなコラムを設けて紹介するといい。
- ⑫ 「かっこいい写真」「アップの写真」等があれば、「実況放送」的な紹介をするページを設けるといい。
- ⑬ 冊子のイメージ構成
（冊子は次のページ参照）

麻機遊水地の自然 シリーズⅠ 野鳥



静岡県静岡土木事務所

遊水地利用上の注意
大雨により河川の水位が上昇して水が遊水地に流れ込む危険がある
と回転灯が回ります。また周辺の河川から水が遊水地に流れ
込む直前にはスピーカーからサイレンが鳴ります。
回転灯が回ったり、サイレンが鳴ったら、危険ですので、すぐに遊
水地の外に出てください。



はじめに

麻機遊水地は昭和50年度に第4工区から着手し、現在第3工区の整備を進めています。第4工区の整備によって治水効果が発揮されると共に湿地には多様な動植物が暮らしています。この様子は平成13年度に発行した「麻機遊水地に暮る生きものたち」でご紹介しましたが、引き続き長年、遊水地で観察活動をしている特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会の協力を得て「シリーズⅠ 野鳥」を発行することになりました。

今後の遊水地の整備計画は第1工区、第2工区の整備を目指し、「治水効果の向上と生きものの多様性」とを合わせつつ安全で親しみのある遊水地にしていきたいと思っております。本書を活用していただき野鳥への知識を深めていただくと共に遊水地の事業にご理解をいただければ幸いです。

平成15年12月

静岡県静岡土木事務所
所長 太田 公夫

● 巴川流域総合治水対策事業のご紹介 ●

目次

- はじめに
- 巴川流域総合治水対策事業のご紹介
- 麻機遊水地は野鳥の宝庫
- 理解を深めるために（用語解説）
- 観察力を高めるために（鳥の各部の名称）
- 春と夏に見られる鳥
- 秋と冬に見られる鳥
- 一年を通して見られる鳥
- 珍しい鳥・絶滅の恐れのある鳥
- 麻機遊水地に出現する鳥（月別出現表）

凡例

- 小学生（高学年）にも理解できる説明文となるよう留意したことなど編集方針を明らかにする。
- 掲載順の意味・考えについて触れる。

「麻機遊水地は野鳥の宝庫」



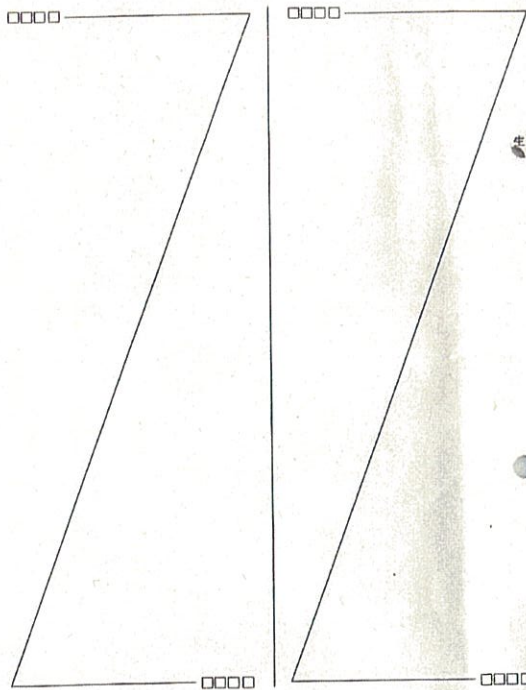
3



・開水面が少なくなってきたために、カモの飛来が少なくなってきたことに触れる。

4

理解を深めるために——用語解説

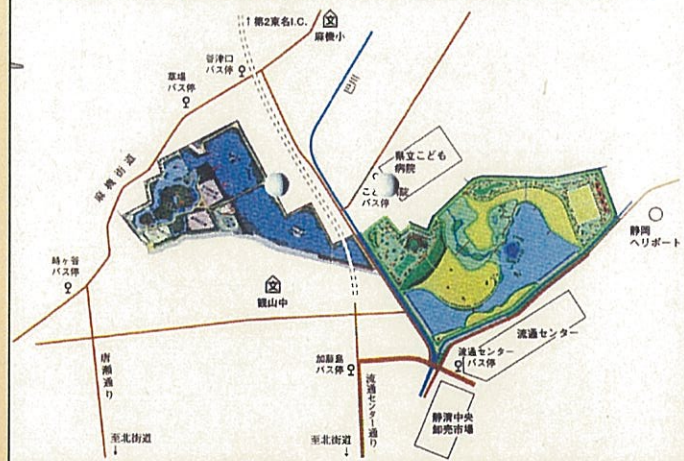


5

観察力を高めるために——鳥の各部の名称



6



珍しい鳥・絶滅の
恐れのある鳥



(コウノトリ目サギ科)

麻機造水地では1983年に初めて記録され、その後毎年のように5月、6月に見られた。越冬した記録もある。最近は観察されていない。

(コウノトリ目サギ科)

A photograph of a white swan in flight over a blue lake. The swan is captured mid-flap, with its wings spread wide, showing dark feathers on the underside. The background is a deep blue lake with some dark, indistinct shapes in the distance.

(力毛目力毛科)

・劇： 辻本野鳥の文靜園主殿 伴賢正 志 作監

[illegible]

21

種 名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息	状況
イナガモ		●						○				●	●	冬鳥	普通
シマアジ				●	●	●					●	●	●	冬鳥	普通
ハシロガモ		●	●	●	●			○		○		●	●	冬鳥	普通
ホシハジロ		●	●		●									冬鳥	少々
モンクハシロ		●	●								●	●	●	冬鳥	少々
スズガモ		●	●								●	●	●	冬鳥	少々
ホシハジロ		●	●									●	●	冬鳥	稀
ミドリアイサ			●									●	●	冬鳥	稀
オウアイサ												●	●	冬鳥	稀
ミドリゴ					●	●			●	●	●	●	●	少	
ハチクマ					●	●								通過	
トビ		●	●		●	●		●			●	●	●	留鳥	普通
オオワシ														稀	
オオタカ		●	●	●	●	●								留鳥	少々
ノミ										●	●	●	●	少	
ハイタカ		●	●		●	●								冬鳥	少々
ノスリ		●	●		●	●		●			●	●	●	少	
サシバ					●	●	●							通過	少々
クマタカ												●			稀
イヌワシ		●		●										稀	
ハイイロチュウビ														通過	
チュウビ					●						●	●	●	通過	
ハヤブサ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	少	
オゴハヤブサ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	稀	
カササギ		●	●	●	●	●								通過	
チュウゲン		●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	冬鳥	少々
ウズラ		●	●	●	●	●								冬鳥	少々
コジュケイ		●	○	○	○	○			●	●	○	○	○	留鳥	普通
キジ		●	●	●	●	●		○						留鳥	普通
クイナ		●	●	●	●	●		○						冬鳥	少々
ヒメクイナ														稀	
ヒクイナ		○	○	○	○	○					●	○	○	夏鳥	少々
シマクイナ													○	冬鳥	稀
シロハククイナ					●		●							通過	

22

[illegible]

23

種 名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息	状況	
ヤマシギ		●	●	●							●	●	●	冬鳥	少	
クシシギ					●		○		●			●		冬鳥	普通	
チョウシギ				●										通過	稀	
オオシロシギ								●	●					通過	多	
シロシロシギ				●										通過	少	
セイタカシギ				●	●				●					通過	稀	
アオメチドリ									●					通過	少	
アカエリヒメシギ						●								通過	稀	
コリカモメ		●	●	●					●			●	●	冬鳥	稀	
ハシロハタアジサシ						●				●				通過	稀	
クロハラアジサシ							●					●	●	通過	稀	
アジサシ									●					通過	稀	
コアジサシ							●		●					夏鳥	普通	
キジバト		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥	多	
アオバト			●	●											稀	
ジュウイチ					○						●			通過	稀	
カウカウ						●	●	●	●					通過	少	
ソウドリ						○	○				●	●		通過	少	
ホトトギス					●	○								通過	少	
トラフズク											●	●	●	冬鳥	少	
コシメズク		●	●	●	●									冬鳥	少	
オオロノハズク		●										●	●	冬鳥	稀	
アオバズク									○		●			夏鳥	少	
フクロウ		●	●	●		○					●	●	●	留鳥	少	
ヒタカ										●	●	●		通過	少	
ハリオオオモツバメ						●				●				通過	稀	
ヒメアマツバメ		●	●	●	●				●	●	●	●	●	留鳥	普通	
アマツバメ		○				●	●	●	●	●	●	●	●	通過	稀	
ヤマセミ		●	●	●	●						●			留鳥	少	
カワセミ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥	少	
ギンガシラ					●									通過	稀	
アリスイ		●	●	●								●	●	冬鳥	少	
アオケラ		●	○	○		●	●	○	○		○	●	○	少		
アカケラ												●	●	少		
アカケラ																
種 名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息	状況	

24

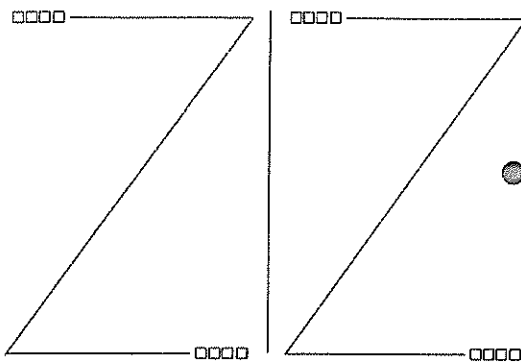
252627

この表は、2002年12月までの過去20年間の認許記録を整理、まとめたものです。

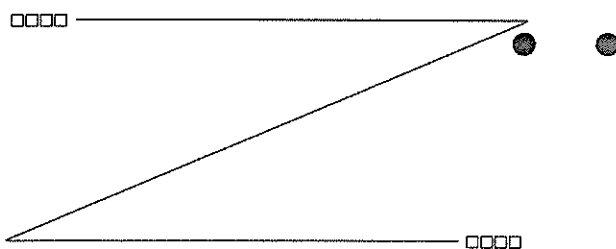
この事を作成する上の一歩は、その村、生息地域の調査で、まず、耳島の調査で

28

さくいん



参考文献



あなたも参加しませんか

日本野鳥の会の活動ご紹介

制作スタッフ

特定非営利法人 麻機温原を保全する会

監修	三宅隆
野鳥の解説文	伴野正志
写真	伴野正志、飯塚久志、小池正明、後藤俊一
事務局	鈴木和喜

(2) 第2回広報デザイナー（県嘱託）の助言

日 時 平成 15 年 12 月 18 日（木）午前 10 時～11 時 30 分

場 所 静岡県庁広報室

助言者 広報デザイナー 小出茂

助言の内容

① 表紙

冊子の表紙は、一般に書店で販売している図鑑のように整理されていいが、この冊子のテーマの「麻機」が強調され、シリーズⅠも強調されていて、A案でどうか。また、シリーズⅠ野鳥のベースはブルーに、植物はグリーンにとしてはどうか。背表紙の色もブルーにする。

② P 1～P 2

背景に航空写真を入れたがよくなった。

③ P 3～P 4

前回より写真が整理されてきた。

④ P 5～P 6

- ・ 案内図をもう少し大きくする。
- ・ 案内図におすすめポイントを表示する。

⑤ P 7～P 8

- ・ 著作権に関わるのももう少し整理する。
- ・ P 8 の鳥の部分の名称は一般の人たちには参考になる。

⑥ P 9～P 56

- ・ 所どころにキャラクターを入れてやわらかな表現にする。
- ・ 外枠の色は季節の色彩にとしてはどうか。
- ・ 表記について

麻機機特性、野鳥の大きさなどは色分けか、字体を変えてはどうか。

⑦ P 19

「秋と冬に見られる鳥」の外枠は季節の特性に合せてはどうか。

⑧ P 57

月別出現表に目と科を表示してはどうか。（目と科は 1 行使用する。）

⑨ 冊子のイメージ構成

（冊子は次ページ参照）

表紙 3 案



A 案



B 案



C 案

はじめに

麻機遊水地は昭和50年度に第4工区から着手し、現在第3工区の整備を進めています。両工区の整備によって治水効果が発揮されると共に湿地には多種の動植物が暮らしています。この様子は平成13年度に発行した「麻機遊水地に暮らす生きものたち」でご紹介しましたが、引き続き長年、遊水地で観察活動をしている特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会の協力を得て「シリーズ1 野鳥」を発行することになりました。

今後の遊水地の整備計画は第1工区、第2工区の整備を目指し、「治水効果の向上」と「生きものの多様性」とをあわせもつ安全で親しみのある遊水地にしていきたいと思ひます。

本書を活用していただき野鳥への知識を深めていただくと共に遊水地の事業にご理解をいただければ幸いです。

平成15年12月

静岡県静岡土木事務所
所長 太田 公夫

巴川流域総合治水対策事業のご紹介

巴川の総合治水対策事業は、昭和49年7月に発生した七夕豪雨を教訓に始められた流域全体を対象にした緊急的な治水対策事業です。主な事業は巴川本川の改修、大谷川放水路の建設、そして多目的遊水地の整備ですが、その他に学校、公園などの公共施設と事業所には雨水貯留施設をお願いします。

麻機多目的遊水地事業はもとより低地であった地形的条件を生かして、巴川が洪水の時には越流堤(堤防を低くした所)から洪水を引きこみ、巴川の洪水を調節します。また、遊水地の働きは治水だけでなく、公園として利用していただける多目的な施設です。この総合治水対策事業が進むにつれ、流域での浸水面積も少しずつ改善されています。

目次

はじめに

・巴川流域総合治水対策事業のご紹介	1
・麻機遊水地は野鳥の宝庫	3
・理解を深めるために(用語解説)	7
・観察力を高めるために(鳥の各部の名称)	8
・春と夏に見られる鳥	9
・秋と冬に見られる鳥	19
・一年を通して見られる鳥	39
・珍しい鳥・絶滅の恐れのある鳥	51
・麻機遊水地に出現する鳥(月別出現表)	57

凡例

- ・この冊子は麻機遊水地に渡来し、過去20年間に記録された200種以上の野鳥を紹介しています。
- ・小学生(高学年)や初めて野鳥の観察をする方にも活用していただけるように編集しました。特に約100種は写真を付けて紹介しています。
- ・3～4ページは野鳥の渡来する遊水地の現在の風景を紹介しています。
- ・5～6ページは観察力を高められるよう野鳥について基本的な用語や鳥の各部の名称を紹介しました。
- ・7～8ページは第3工区、第4工区の鳥獣園と水辺・干潟・湿地(休耕田)・草原などの土地の条件や季節によって見られるような野鳥を紹介しています。
- ・9～55ページは遊水地で見られる代表的な野鳥、約100種を「春と夏に見られる鳥」「秋と冬に見られる鳥」「珍しい鳥・絶滅の恐れのある鳥」の三つに分けて紹介しています。
- ・57～63ページは遊水地で過去20年間に記録された野鳥を月別の「出現表」にまとめ紹介しています。

麻機遊水地は野鳥の宝庫



静岡市の郊外にある麻機遊水地は、以前はアシやヨシに覆われている沼地でしたが、昭和49年の七夕豪雨で巴川が氾濫して大きな被害を出してから、その後遊水地へと改良が進み現在に至っています。遊水地事業により、開水面が増えたことも要因となり、多くの野鳥が集まるようになり、静岡の代表的なバードウォッチングの好適地として、静岡県内はもちろんのこと、全国的にも有名になりました。日本野鳥の会静岡支部でも毎月1回、この地で探鳥会を実施してきましたが、すでに180回を超えています。

日本では、約600種類の野鳥が確認されており、静岡県内では390種類が知られています。ここ麻機遊水地では今までに200種類以上が確認されており、1箇所で見られた野鳥の種類としては非常に多く、野鳥の豊富さを証明しています。

麻機の鳥たちの代表はなんといっても水鳥です。カワセミや

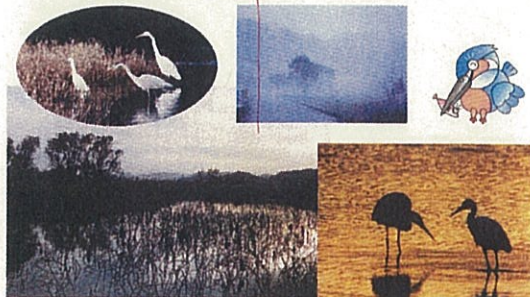


バン、カイツブリ、サギ類は1年中見られます。夏はコアジサシが飛来しオオシロギスがさえずります。春と秋の渡りの時期にはシギやチドリ仲間が羽を休めます。しかし何といっても麻機は、冬が一番賑やかになる時期です。冬鳥として渡ってくるオナガガモやヒドリガモなど10種類を超えるカモたちが池を色どります。ここ数年はコハクチョウも越冬しています。コウノトリが越冬し、多くのバードウォッチャーで賑わったこともありました。ただそんな賑やかなカモたちも1998年の100羽をピークとして、年々減少傾向にあり、ここ数年は最盛期でも600羽を切るほどです。この減少の原因は、大きくは



地球規模の温暖化や環境汚染に起因するものかもしれませんが、ここ麻機では、開水面の減少にその原因の一つがありそうです。工事によることもありますが、ハスやアシ、ヨシの繁茂による水面の減少は、泳ぎまわるカモたちにとっては住みにくくなっているようです。

人工的に改変してきた遊水地で、鳥を含めた動植物との共存を図るには、やはり人の手で保護、管理していく必要があります。未来永劫、この遊水地が野鳥の宝庫として、また県民の自然に親しむ場所として残していくために、皆で知恵を出しあいましょう。



バードウォッチング — おすすめポイント



ゴミは、絶対に
出さないでね。
たき火も
しないで。

水辺の鳥（ヨシ原を含む）	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
オオヨシキリ コヨシキリ ヨシゴイ コアシサシ アマサギ ツバメ	マガモ コハクチョウ マガモ コガモ ヒドリガモなどの カモ類
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
ツリスガラ レンカク シマアジ	アオサギ ダイサギ カワセミ カルガモ タマシギ カイツブリ

干潟・湿地（林耕地）の鳥	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
ヒクイナ コチドリ ササゴイ チュウサギ アマサギ	コミミズク タゲリ タシギ クサシギ クイナ ハマシギ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
アオアシサギ キアシサギ ウスアシサギ セイウカサギ イルカチドリなど のシギやチドリ類	タマシギ バン ケリ コサギ アオサギ イソシギ

草原の鳥（田畑を含む）	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
アマサギ チュウサギ	コミミズク チヨウゲンボウ ハイロチュウヒ アオジ カシラダカ ホオジロ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
ムナグロ フクロウ ノビタキ	ケリ セッカ スズメ ホオジロ キジ アオサギ

疎林の鳥	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
コゲラ アオバズク アマサギ	トラフズク オオタカ アリスイ アカガラ ジョウビタキ アカハラ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
カリコウ ツツリ ホトトギス フクロウ	キジ アオガラ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ

上空を通過	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
ツバメ コシアカツバメ イワツバメ	オオウシ ミサゴ ハヤブサ ユリカモメ イスワフ ハイタカ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
アマツバメ ショウドウツバメ サシバ	ヒメアマツバメ トビ ノスリ

遊水地ご利用の際の注意点

遊水地は大雨の時には急に水位が高くなります。赤色灯やサイレンが鳴ったら速やかに退避してください。
池沼には水生植物が繁茂していて、陸と池沼の境が明確でない場所があります。水辺に近づく時は十分な注意が必要です。
また、携帯用の消毒薬や虫さされ、バンソウコウなどの用意をおすすめします。

5

※ここには本文中に写真を付けて紹介した鳥のみを掲載しています。

6

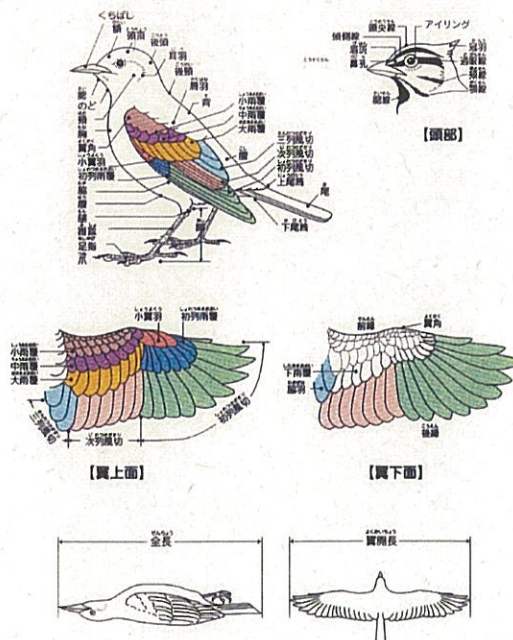
理解を深めるために——基本用語

- 幼鳥（ようちよう）：雛の体羽が生えそろう、第1回目の換羽を終えるまでの時期の鳥。
- 雛（ひな）：孵化して体羽が生えそろうまでの時期の鳥。
- 生体羽（せいしよくばね）〔夏羽〕：繁殖期またはそれに先立つつがい形成期に見られる羽色。
- 非生体羽（ひせいしよくばね）〔冬羽〕：非繁殖期の羽色で、生体羽より地味なことが多い。
- エクリプス羽：カモ類のオスは繁殖期のあと全身換羽し、メスとよく似た地味な羽色となる。
- 留鳥（りゅうちよう）：一年中、同じ地域に留まる鳥。一部、渡りや移動を行うものもある。
- 夏鳥（なつどり）：春に南方の越冬地から渡来して繁殖し、秋に再び南方へ渡去する鳥。
- 冬鳥（ふゆどり）：秋に北方の繁殖地から渡来して越冬し、春に再び北方へ渡去する鳥。
- 旅鳥（たびどり）：北方の繁殖地と南方の越冬地を往來する渡りの途中、春秋にだけ出現する鳥。
- 渡鳥（ひようちよう）：山地や寒地で繁殖し、低地や暖地で越冬する。国内レベルの短い渡りをする鳥。
- 迷鳥（めいちよう）：本来の生息地や渡りのコースからはずれて、偶発的に出現する鳥。
- 調整（なわばり）：採餌、繁殖などのために1個体（1羽）またはつがい同種の他個体から防衛する一定範囲の生活空間。
- 絶滅危惧種（ぜつめつきぐしゅ）の出現
環境省で発行されている『改訂・日本の絶滅のおそれのあるレッドデータブック野生生物（2002）』に記載されている。
- 準絶滅危惧種（NT） マガン（18ページ）
現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性がある種。
- 絶滅危惧IA類 コウノトリ（18ページ）
ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種。

ごく基本的な
用語です。
覚えてね！



観察力を高めるために——鳥の各部の名称



7

8

春と夏に見られる鳥



ヨシゴイ

(コウノトリ目サギ科)

全長 36 cm。サギ類中最も小さい。全体に黄褐色で雄では頭上が黒い。髪と黒と黄褐色のコントラストがはっきりする。アシ原を主な生息地とする。アシに紛れて見つけにくい鳥です。外敵が近付くと

首を伸ばしてアシに擬態する。アシ原をすれすれに飛ぶ姿を見ることが多い。「オーオー」と低い声で朝夕に鳴く。

麻機では夏鳥として渡来し少数ながら繁殖しています。稀に越冬する。5月下旬から10月に見られる。最近ではアシ原の減少とともに激減している。静岡県レッドデータブック掲載種。

アマサギ

(コウノトリ目サギ科)

全長 50 cm。夏羽では頭部から胸、背が橙黄色で翼は白い。冬羽はほとんどが白くなる。他のシラサギ類より湿った環境を好み、カエル、バッタなどを餌とする。時にはネズミ類も捕食する。

麻機では夏鳥として4月から10月に見られる。数十羽の群れでいることが多い。水田や休耕田でせわしなく歩きながら餌を探しています。麻機では繁殖はしていない。少数ながら越冬します。



チュウサギ

(コウノトリ目サギ科)

全長 68 cm。夏鳥として4月から10月に見られる。全身白く、嘴と足は黒い。アマサギと同じような環境を好み、魚やカエル、バッタ類を餌とする。全国的に減少傾向にあり、環境省では準絶滅危惧種に指定されている。

麻機では比較的普通に観察でき、休耕田などで小群が採餌している。シラサギ類では異色が鮮しい種であり、ダイサギと間違えやすい。嘴の長さや色などがポイントとなる。繁殖はしていない。少数は越冬する。



秋と冬に見られる鳥



カワウ

(ペリカン目ウ科)

全長 82 cm。全体に黒色で背は褐色を帯びる。嘴の根元は黄色く、頬は白い。繁殖期には顔と下腹部に白斑が出ます。盛んに潜水して魚を捕食する。全国的に増加傾向にあり、漁業被害が報告されている。

麻機では1989年より記録され、年々増加している。主として秋から冬に生息するが、最近では周年を通じて少数が見られる。繁殖はしていない。

オシドリ

(カモ目カモ科)

全長 45 cm。雄は派手な色合いで、橙色の翼が目立つ。雌は灰褐色で目の周りが白い。樹木に囲まれた池、湖や深流を好むが、冬には開けた水辺にも現れる。樹洞で営巣する。静岡県では、山間部のダム湖で群が見られる。

麻機では、越冬記録もあるが秋の渡りに観察されることが多い。夏の記録は、日本平動物園の飼育個体の可能性がある。



マガモ

(カモ目カモ科)

全長 59 cm。雄は頭部が緑色で、嘴は黄色。首に白い輪があります。脚はぶどういろで、背は灰白色、足は褐色です。雌は全体的に褐色で嘴は褐色。「ゲツ、ゲツ」と大きな声で鳴きます。主に冬鳥として

渡来するが、北日本では少数繁殖します。麻機では、200羽前後が越冬する普通種です。10月頃に渡来し、4月頃まで観察できます。毎年数羽が夏でも見られます。



一年を通して見られる鳥



カイツブリ
(カイツブリ目カイツブリ科)

全長26cm。カイツブリ類の仲間では最小。夏羽は顔から首は赤褐色で、嘴の根元の黄色い部分が目立つ。冬羽は全体に淡褐色。幼鳥は顔から首に黒い横模様がある。「ケレケレケレ、ピッピッ」などと鳴く。盛んに潜水して小魚やエビ類を捕食する。麻機では第3・4工区に周年生息し、繁殖している。巴川にも入ることがあります。5月から8月に可愛い雛が見られます。秋から冬は小群をつくれます。

ゴイサギ

(コウノトリ目サギ科)

全長57cm。全体に灰色で頭上と背は黒く冠羽がある。幼鳥は全体に褐色で白い斑点があり、ホシゴイともいわれる。夜行性で、飛びながら「クワックワック」と鳴き、夜ガラスの名もある。日中は林などでじっとしている。湿地や蘆田、川、池などで魚やカエルなどを餌とする。静岡市内では日本平動物園周辺で、コサギ、アオサギとともに営巣している。麻機では周年観察できるが、繁殖はしていない。小群または単独で見られるが、時には百羽以上の大群でいることもある。最近は、減少傾向にある。原因は不明だが、県内での分散と考えられる。



ダイサギ

(コウノトリ目サギ科)

全長90cm。シラサギ類の中では最も大きい。全身白い。夏羽では嘴が黒く、飾り羽が胸と背にあります。冬羽では嘴は黄色くなります。常に水辺に生息し、魚類を主食としている。単独が数羽で生息し、優雅なシラサギの姿が見られます。麻機では、1〜2羽が秋から冬に見られる冬鳥だった。1991年からは周年観察されるようになったが、繁殖はしていない。第3・4工区に10羽前後が見られる。



珍しい鳥・絶滅の恐れのある鳥



サンカノゴイ

(コウノトリ目サギ科)

全長70cm。



アカガシラサギ

(コウノトリ目サギ科)

全長45cm。夏羽では頭部から胸は赤褐色で背は黒く、翼は白く冠羽がある。冬羽は全体に淡褐色で目立たない。日本では稀な鳥とされていたが、近年各地で繁殖が確認されている。体型はゴイサギ類に似るが、習性はシラサギ類に似ている。湿地や水田、池などで魚、カエル、バッタ類などを餌とする。麻機では、1983年に初めて記録され、その後毎年のように5月、6月に見られた。越冬した記録もある。最近は観察されていない。



コウノトリ

(コウノトリ目サギ科)

全長112cm。環境省では最も絶滅が心配される絶滅危惧ⅠA類に指定されている。体は白く、翼は黒と白、足は淡赤色で嘴は長く黒い。水辺で、ドジョウなどを餌とする日本では以前、兵庫県と福井県で繁殖していたが、今では冬季に中国大陸から少数が渡来するのみである。麻機では、1995年12月から1996年3月に1羽が越冬し、麻機遊水地が全国的に有名になりました。若鳥だったので比較的近くで見ることができ、多くの観察者を驚かせてくれました。再度の渡来が望まれる鳥です。



(財)日本野鳥の会静岡支部 伴野正志 作成

《表の見方》

- : 姿態記録 (しにんさうく)
○ : 本来の生息時期でない姿態記録
◇ : 鳴き声の記録
多 : ごく普通に観察できる種
普通 : 普通に観察できる種
少 : 普通に観察できるが少ない種
稀 (まれ) : 年によって観察できる種
稀稀 (まれまれ) : 1~2 回しか記録がない種
通過 : 繁殖期では春の渡りの時期に出現する種
普通 : 普通に観察できる種
- ※生息状況の「空白」は、不定期な記録のため断定できない種です。

種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況
カイツブリ (P.13)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
ハジロカイツブリ														冬鳥 稀
アカユリカイツブリ														通過 極稀
カンムリカイツブリ		●			●									冬鳥 少
カワウ (P.15)														普通
サンカノゴイ (P.17)		●	●											冬鳥 稀
ヨシゴイ (P.18)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	夏鳥 稀
オオヨシゴイ														通過 極稀
ゴイサギ (P.14)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
ササゴイ					●	●	●	●	●	●	●	●	●	通過 少
種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況

57

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です

[illegible]

58

[illegible]

59

		出現月												生後状況
種名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
キョウジョシギ														旅鳥
トウネン	P.00					●	●		●			●		旅鳥
ヒバリシギ						●								少
オジロトウネン						●								旅鳥
アメリカウスズラシギ						●								稀種
ウスズリシギ	P.00					●					●	●		少
ハマシギ	P.00	●	●	●							●	●		冬鳥
サルハマシギ														旅鳥
エリマキシギ														旅鳥
フルシギ	P.00			●	●						●	●		少
コアオアシシギ	P.00													旅鳥
アオアシシギ	P.00													少
タカシギ	P.00	●	●	●										冬鳥
タカアシシギ	P.00							○						少
キアシシギ	P.00													旅鳥
イソシギ	P.00	●	●	●										少
ソリハシギ														旅鳥
オダロシギ														旅鳥
ダイシャクシギ		●												稀種
チュウシャクシギ	P.00						●	●	○					旅鳥
コシヤクシギ														旅鳥
ヤマシギ	P.00	●	●	●							●	●		少
タシギ	P.00	●	●	●				○						冬鳥
チュウジシギ														普通
オオジシギ								●						稀種
ジシギSP.							●	●	●					通過
セイヤカシギ	P.00									●	●			通過
ツバメホドリ	P.00													通過
アカフリヒレアアシシギ						●				●				旅鳥
ユリカモメ		●	●	●							●	●		冬鳥
ハジロクロハラアジサシ							●							通過
クロハラアジサシ	P.00													通過
アジサシ														旅鳥
コマザシギ	P.00										●	●		夏鳥

60

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です

種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況
キジバト P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 多
アオバト				●						●	●			多
ジュウイチ				○						●				通過 稀
カワコウ						●	●	●	●					通過 少
ツツドリ						○	●	●	●		●	●		通過 少
ホトトギス						●	●	●	●					通過 少
トラツズク P.00		●	●	●										冬鳥 少
コミズク P.00		●	●	●										冬鳥 少
オオコノハズク														稀
アオバズク P.00						●		○		●				夏鳥 少
ツクロウ P.00		●	●	●		○				●	●	●		留鳥 少
ヒタカ P.00										●	●	●		通過 少
ハリオアマツバメ						●					●	●		通過 稀
ヒメアマツバメ P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
アマツバメ		○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	通過 少
ヤマセミ											●			稀
カワセミ P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 少
ヤツガシラ														通過 極稀
アリスイ P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●				冬鳥 少
アオゲラ		●	○	○	○			○		○	○	○		少
アカゲラ											●			稀
コゲラ P.00						●	●	●	○	●				少
ヒメロウテンシ						●								通過 極稀
ヒバリ P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 少
ショウドウツバメ				●										通過 少
ツバメ P.00		○	○			●	●	●	●	●	○			夏鳥 普通
コシアカツバメ P.00											●	●	●	夏鳥 普通
イワツバメ		○	○							●	●	●	●	夏鳥 少
フメナガセキレイ										●				旅鳥 極稀
キセキレイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 少
ハクセキレイ P.00														留鳥 普通
(ホオジロハクセキレイ)														稀
セグロセキレイ P.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
ビンズイ											●	●	●	通過 少
種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況

61

※種名右の数字は、写真付きで紹介している番号です。

種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況
タヒバリ		●	●	●	●						●	●		冬鳥 普通
セビドリ F.00		●	●	●	●						●	●	●	留鳥 普通
モズ F.00		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
アカモズ											●	●		通過 少
キレンジャク		●	●	●										冬鳥 稀
ヒレンジャク F.00		●												冬鳥 少
ノゴマ					●							●	●	通過
ルリビタキ			●	●	●									冬鳥 稀
ジョウビタキ F.00				●	●							●	●	冬鳥 少
ノビタキ F.00												●	●	冬鳥 少
インセビドリ		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	通過
トウツグミ							●	●						少
クロツグミ						●								稀
アカハラ		●	●	●	●							●	●	冬鳥 少
シロハラ		●	●	●	●							●	●	冬鳥 少
ツグミ F.00		●	●	●	●							●	●	冬鳥 普通
ウグイス F.00		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
オオセッカ					●									通過 稀
シマセンユウ											●			通過 稀
コヨシキリ F.00								●	●	●	●			通過 少
オオヨシキリ F.00						●	●	●	●	●	●			夏鳥 普通
メボソムシクイ														通過 稀
センダイムシクイ						●								通過 稀
セッカ F.00														留鳥 普通
コサメビタキ											●	●		通過 稀
サンコウチョウ						●								通過 稀
エナガ		●	●	●	●							●		少
フリスガラ F.00			●	●	●						●	●		通過 少
コガラ												●		稀
ヤマガラ		●	●	●	●									少
シジュウカラ F.00		●	●	●	●						●	●		留鳥 少
メジロ F.00		●	●	●	●						●	●		留鳥 少
ホオジロ F.00		●	●	●	●									留鳥 普通
コジュリン			●	●	●							●	●	通過 少
種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況

種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況
ホオアカ (P.06)		●	●	●	●	●	○	○			●	●	●	冬鳥 少
カシラダカ (P.06)		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 普通
コホオアカ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 極稀
ミサマホオシロ											●	●	●	冬鳥 極稀
ノジコ					●	●					●	●	●	通過 稀
アオジ (P.05)					●	●					●	●	●	冬鳥 普通
クロジ											●	●	●	極稀
オオジュリン		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 少
アトリ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 稀
カワラヒワ (P.06)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
マヒワ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 極稀
ベニマシコ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 稀
コイカル		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 稀
イカル (P.06)		●	●	●	●	●	○	●		●	●	●	●	普通
シメ (P.06)		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	冬鳥 少
ニューナイスズメ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	通過 少
スズメ (P.06)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
コムクドリ					●	●	●	●	●	●	●	●	●	通過 少
カラムクドリ											●	●	●	通過 極稀
ムクドリ (P.06)		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	留鳥 普通
カケス		●	●	●	●	○	●	●			●	●	●	少
オナガ						●	●	●			●	●	●	稀
ハシボソガラス (P.06)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
ハシブトガラス (P.06)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	留鳥 普通
ワカケホンセイインコ						●	●	●			●	●	●	
セキセイインコ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	
オカメインコ		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	
ベニスズメ			●	●	●	●	●	●			●	●	●	
ギンバラ						●	●	●			●	●	●	
ギンバラ						●	●	●			●	●	●	
ギンバシ										●	●	●	●	
ヘキチヨウ										●	●	●	●	
ソウシチヨウ						●	●	●			●	●	●	
テンシチヨウ											●	●	●	
種 名	出現月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生息状況

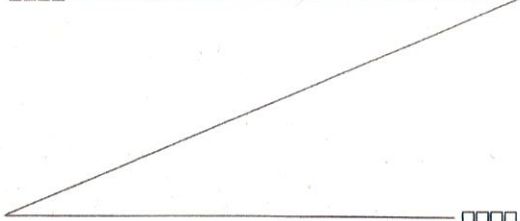
鳥名索引

全写真付きで編集した鳥のみ掲載

ア	コ	ハ
アオアシシギ.....30	コガラ.....00	ハシセキレイ.....00
アオサギ.....41	コサギ.....00	ハシビロガモ.....00
アイシ.....37	コシロアサギ.....00	ハシバシガラス.....00
アイバズク.....00	コハクチョウ.....00	ハシボコガラス.....00
アイオガシラサギ.....00	コミズナ.....00	ハマシギ.....00
アマサギ.....00	コヨシキリ.....00	ハヤブサ.....00
アサスイ.....00		バン.....00
イカル.....00	サ	ヒタリ.....00
イナズナドリ.....00	サンカクゴイ.....00	ヒヨコモウ.....00
イシギ.....00	シジュウカラ.....00	ヒマリ.....00
ウグイス.....00	シメ.....00	ヒメアサギ.....00
ウツバシギ.....00	ジロウビキ.....00	ヒメクナ.....00
ウスカサ.....00	スズメ.....00	ヒメドリ.....00
オオカサ.....00	セイタカシギ.....00	ヒレンシヤク.....00
オオハシ.....00	セグロセキレイ.....00	フクロウ.....00
オオホシホリ.....00	セッカ.....00	ホオアサギ.....00
オカヨシガモ.....00		ホオジロ.....00
オシドリ.....00	タ	ホシハジロ.....00
オナガガモ.....00		
	ダイサギ.....00	マ
	タカアシシギ.....00	マガモ.....00
	タゲリ.....00	マモン.....00
	タシギ.....00	ミサゴ.....00
カブツリ.....00	タマシギ.....00	ムクドリ.....00
カシラダカ.....00	チュウサギ.....00	ムナグロ.....00
カルガモ.....00	チュウシヤクシギ.....00	メジロ.....00
カウ.....00	チョウゲンボウ.....00	モズ.....00
カウセミ.....00	ツグミ.....00	
カワセヒツ.....00	ツバメ.....00	ヤ
カアシシギ.....00	ツバメドリ.....00	ヤブガラス.....00
キジ.....00	ツリスガウ.....00	ヤマシギ.....00
キジバト.....00	ツルシギ.....00	ヨシギ.....00
クイナ.....00	ツルネン.....00	ヨシゴイ.....00
クアシギ.....00	トビ.....00	ヨシカ.....00
クハラアジサシ.....00	トラフズク.....00	
クリ.....00		ナ
クオアシシギ.....00		ノスリ.....00
クオジサシ.....00		ノビタキ.....00
クイサギ.....00		
クウノトリ.....00		
クサネ.....00		

参考文献

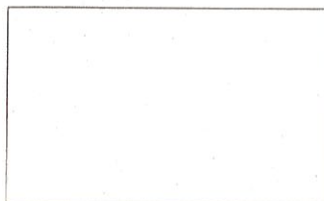
□□□□



□□□□

あなたも参加しませんか 麻機遊水地の探鳥会

日 時 毎月第4日曜日(雨天中止) 午前9時30分～11時30分
集合場所 第4工区の巴川と七曲川の合流点(県立こども病院の西側)
参加費用 無料
申し込み 不要
連絡先 00日本野鳥の会 静岡支部(TEL 054-208-5466)
担当者 飯塚久志 後藤俊一



35

制作スタッフ

特定非営利活動法人 麻機遊水地を保全する会

監 修 三宅隆
野鳥の解説文 伴野正志
写 真 飯塚久志、小池正明、後藤俊一、伴野正志
事務局 鈴木和喜

特定非営利活動法人 麻機遊水地を保全する会

私たちは麻機遊水地を拠点に「生きものと地域の関わりを大切にした活動や行政とも連携した活動を目指しています。」

〈主な活動〉

- ・生きものを大切にした活動
長年遊水地を中心に動植物の観察活動をしている会員が中心になって、ヤナギの森づくりやクリーン作戦を行い、生きものの住みやすい環境づくりをしています。
- ・地域との関わりを大切にした活動
昔から遊水地であったこの地域を囲繞し、稲作や池沼で伝統漁(集あげ)など農村文化を育んできた人々から、昔の様子を聞いたり、田んぼを復元するなどの活動をしています。
- ・自然環境教育への支援活動
生きものや地域の文化に詳しい会員を「自然環境レンジャー」に認定し、小学校の総合学習や町内会の観察会に派遣しています。

麻機遊水地の自然－シリーズ1 野鳥－

発行：静岡県静岡土木事務所(河川改良課)
〒422-8031 静岡市有明町2-20
TEL 054-286-9363 FAX 054-286-9398
(ホームページ：ともえ川(ともえランド))
<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/>

制作：特定非営利活動法人 麻機遊水地を保全する会
事務局 〒420-0961 静岡市北141-1
TEL 054-247-4905

66

(3) 第3回広報デザイナー（県嘱託）の助言

日 時 平成16年2月19日（木）午前10時～10時30分

場 所 静岡県庁広報室

助言者 広報デザイナー 小出茂

助言の内容（レイアウト最終稿）

① 5・6ページ

案内図は現地の状況が明確に捉えられるように航空写真と取り替えた。

② 8ページ

「観察力を高めるために一鳥の各部の名称」は簡単な図に修正した。

③ 字こぼれの工夫

野鳥の写真の大きさに納めたい。

④ ページ内の空間処理

説明文が少なく空間が多くなれば、カワセミのイラストか写真の大きさによって、そのページのバランスをよくしたい。

⑤ 野鳥の説明文中「麻機」の文字

この文字が目立ちすぎるので、色文字などによって対応してはどうか。

⑥ ページの文字

数字が強調文字になっているが、普通の文字でどうか。

⑦ コラムの工夫

野鳥の図鑑が続くので、所どころにコラムをつくり遊水地利用のマナーなど入れてはどうか。

⑧ 冊子の背文字

台紙の色具合で調節し、その中にカワセミのキャラクターを入れ、今後制作する冊子との違いを区分してはどうか。

⑨ 73ページ

- ・ 参考文献を7冊挙げた。
- ・ 麻機遊水地の探鳥会の写真を加えた。

⑩ 編集・構成

素人の人達がこれだけの情報（写真等）をもって制作されることは素晴らしいと思う。



バードウォッチング — おすすめポイント

○印：代表的なおすすめポイント

ゴミは、絶対に
出さないでね。
たき火も
しないで。



水辺の鳥（アシ原を含む）	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
オオヨシキリ コヨシキリ ヨシゴイ コアシサギ アマサギ ツバメ	カワウ マガモ コガモ ヒドリガモなど
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
ソリスガラ シマアジ	カイツブリ アオサギ ダイサギ カワセミ カルガモ タマシギ

遊水地ご利用の際の注意点

遊水地は大雨の時には急に水位が高くなります。赤色灯やサイレンが鳴ったら速やかに退避してください。

他沼には水生植物が繁茂していて、陸と池沼の境が明確でない場所があります。水辺に近づく時は十分な注意が必要です。

また、携帯用の消毒薬や虫さされ、パンソウコウなどの用意をおすすめします。

干潟・湿地（休耕田）の鳥	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
ヒクイナ コチドリ チュウサギ アマサギ	コミミズク タカギ カサギ クイナ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
アオアシサギ キアシサギ ウスアシサギ セイタカサギ イルカチドリなど	タマシギ バン ケリ コサギ アオサギ

草原の鳥（田畑を含む）	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
アマサギ チュウサギ	コミミズク チョウゲンボウ アオジ カシラダカ ホオジロ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
ムナグロ フクロウ ノビタキ	ケリ セッカ スズメ ムクドリ キジ

疎林の鳥	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
コガラ アオバズク アマサギ	トラフズク オオタカ アリスイ ジョウビタキ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
カクコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ	キジ メジロ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ

上空に見られる鳥	
夏鳥（春から夏）	冬鳥（秋から冬）
ツバメ コシアカツバメ イワツバメ	ミサゴ ハヤブサ ハイタカ
旅鳥（春と秋）	留鳥（一年間）
アマツバメ ショウドウツバメ サンバ	ヒメアマツバメ トビ ノスリ

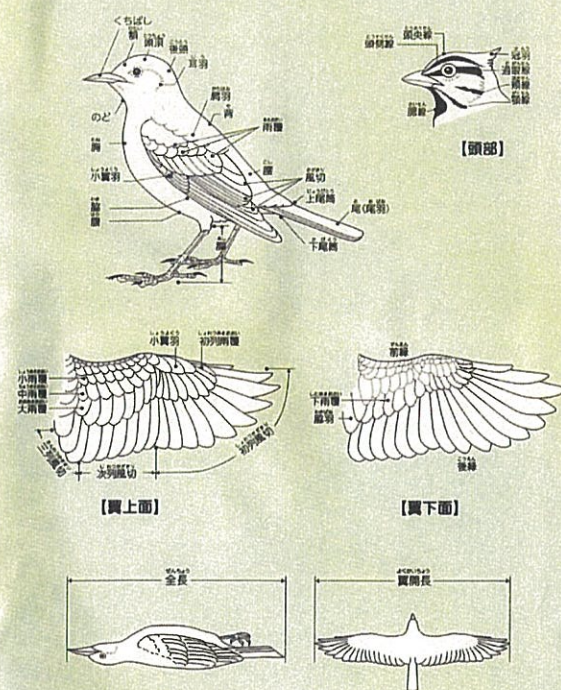
5

※ここには遊水地でよく見られる鳥を環境別に掲載しています。

●資料提供：飯塚久志

6

観察力を高めるために——鳥の各部の名称



8

参考文献

- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄：『山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥』（山と溪谷社・東京1998）
- 静岡県立自然史博物館設立推進協議会（編）：『しずおか自然図鑑』（静岡新聞社・静岡2001）
- 静岡の鳥類委員会：『静岡県鳥類図鑑』（静岡県環境部自然保護課・静岡1998）
- 高野伸二：『フィールドガイド日本の野鳥』（日本野鳥の会・東京1982）
- 日本鳥学会：『日本鳥類目録改訂第6版』（日本鳥学会・帯広2000）
- 日本野鳥の会静岡支部：『野鳥だより No. 300』（日本野鳥の会静岡支部・静岡2003）
- 真木広造・大西敏一：『決定版日本の野鳥590』（平凡社・東京2000）

あなたも参加しませんか

麻機遊水地の探鳥会

日時 毎月第4日曜日（雨天中止） 午前9時30分～11時30分
集合場所 第4工区の巴川と七曲川の合流点（県立こども病院の西側）
参加費用 無料
申し込み 不要
連絡先 財団法人日本野鳥の会 静岡支部（TEL 054-208-5466）
担当者 飯塚久志 後藤俊一



73